

銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ
而シテ其背戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮
ニ預ケ置キタル公債証書ヲ没入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ
三十日以内ニ)申渡シ其公債証書ヲ取上クヘシ

(銀行領店ニ付其銀行紙幣官府ニ於テ引換ノ件)

第九十七條 右諸般ノ手續了リシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經
テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引
換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ而
シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒
捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

(没入公債証書賣却ノ件)

第九十八條 紙幣頭ハ出納國債ノ兩頭ニ協議シ此條例第九十六條銀

行ヨリ没入スル所ノ公債証書ヲ通貨又ハ其銀行紙幣ヲ以テ公賣又
ハ私賣トモ爾時大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ世人ニ賣渡スヘシ尤其趣
ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

(特例監督役ノ報知ヲ得テ跡引受人ヲ命スルノ件)

第九十九條 此條例第九十六條ニ掲グル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得
之カ處分ヲナスニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其
銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸貸付金立替金ヲ取立タ
ル上ニテ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ謀リテ滯リ貸金類及
ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ
金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ割返シ不足ア
レハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ分散ヲナサシム
ヘシ

〔銀行ノ借財償却處分ノ件〕

第百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三箇月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右時限中ニ申出テシメ共事由ト證書類トヲ檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

〔銀行鎖店ニ付株主負責ノ制限〕

第百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令ヒ其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルコトアルモ其株主等ハ其創立證書ニ於テ掲載シタル株式金額ノミヲ損失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ勿カルヘシ

〔鎖店處分宥恕ノ件〕

第百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ掲グル所ノ處分ヲナスニ際

シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルコトアリテ其狀實ヲ具陳スル時ハ監督役ヲ出セシ日ヨリ三十日以内(郵便遞送日數ヲ除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實証アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ラク其處置ニ取掛ルコトヲ見合セシムヘシ

〔銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタルモ其處分ニ於ケル諸入費辨償ノ件〕

第百三條 此條例第九十二條ニ掲載スルカ如ク銀行紙幣ノ引換或ハ預リ金ノ返濟ヲ拒ミ之カ爲メ生スル處ノ費用即チ紙幣持主或ハ預ケ金アル者ノ出願入費及ヒ諸檢査推糺ノ入費(跡引受人ノ入費等ハ都テ相當ノ處分ヲ以テ紙幣頭之ヲ取極メ其銀行ヨリ之ヲ辨償セシ

ムハシ

○第十三章 銀行平穩鎖店ノ手續及其紙幣引換方等ノ事ヲ明カ

ニス

〔平穩鎖店ノ件〕

第四百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後チ三箇月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ清算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

〔公債証書ノ下戻及ヒ銀行紙幣流通ノ殘額ヲ處分スルノ件〕

第四百五條 右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙

幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ノ内ヲ取戻スヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半箇年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタル公債証書ノ全額ヲ取戻スヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

〔殘在銀行紙幣引換ノ爲メ通貨領受ノ件〕

第四百六條 右鎖店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取証書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ

但シ出納頭ハ右受取証書ノ外ニ預リ証書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ同附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スル

法 商

ニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭へ渡スヘシ

〔殘在銀行紙幣引換ノ件〕

第七條 右預リ証書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ従事スヘシ

〔引換銀行紙幣燒捨ノ件〕

第八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

○第十四章

銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

〔訴訟ノ取扱ハ一般ノ方法ニ從フヘキ件〕

第九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般

ノ人民ヲ相手取リ訴訟スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取リ訴訟セラルハカノキハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁判所(又ハ府縣ノ廳斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ

〔罰金處分ノ件〕

第十條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ廳斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スノアルキハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ廳斷主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

○第十五章 銀行納税ノ事ヲ明カニス

〔銀行納税ノ件〕

第百十一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

○第十六章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス
〔條例更正及ヒ廢止ノ件〕

第百十二條 此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ增補シ又ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ但シ右增補其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

國立銀行成規目次

銀行創立手續ノ事	第一條ヨリ至第九條ヨリ
株金募方ノ事	第十條ニ至第十二條
資本金月賦入金ノ事	第十三條
資本金集合高申牒ノ事	第十四條ヨリ至第十五條ヨリ
資本金増減ノ事	第十六條ヨリ至第十七條ヨリ
公債證書預方ノ事	第十八條ヨリ至第十九條ニ至ル
銀行紙幣注文ノ事	第二十條
銀行紙幣發行ノ事	第二十一條ヨリ至第二十四條ニ至ル
損壞銀行紙幣引換方ノ事	第二十五條ヨリ至第二十六條ニ至ル
株式ノ事	第二十七條ヨリ至第二十八條ニ至ル
株式賣買ノ事	第二十九條ニ至ル

商法

株式讓與ノ事	第三十條
株式没入ノ事	第三十一條
總會ノ事	第三十二條ヨリ
株主發言投票ノ事	第三十三條ニ至ル
諸役員ノ事	第三十四條ヨリ
社中申合規則ノ事	第三十七條ニ至ル
利益金分配ノ事	第三十八條ヨリ
諸計算ノ事	第六十條ニ至ル
諸願伺届等差出方ノ事	第六十一條
國立銀行報告ノ事	第六十二條
	第六十三條ヨリ
	第六十四條ニ至ル
	第六十五條
	第六十六條

目次畢

○國立銀行成規

○銀行創立手續ノ事

第一條 此條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立セシトスルニハ先ツ五人以上ノ人員申合セ國立銀行創立致シ度越テ願書ニ認メ之ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ此願書ニハ其銀行ノ營業場所資本金額等ヲ簡明ニ記載シ願請人一同之ニ記名調印スヘシ而シテ其之ヲ差出スニハ願請人直チニ之ヲ紙幣寮ニ持參スルカ又ハ(遠隔ノ地方ナレハ)郵便ヲ以テ之ヲ送達スルモ苦シカラス

但シ此資本金高ノ五分一ハ首トシテ其發起人等ヨリ之ヲ出金シ若シ不足アラハ自餘加入ノ者ヨリ其引請ケントスル株式金額ノ若干ヲ出金セシムルヲ以テ常則トス

商 法

第二條 右五人以上ノ人員ハ即チ發起人ニシテ株金ノ募方(若シ之ア

國立銀行成規

ラハ)並取締役ノ撰舉等相濟ム迄ハ都テ銀行ノ事務ヲ擔當辦理スル
モノトスヘシ

第三條 紙幣頭ハ右願書ヲ受取ラハ其發起人等ノ身分其外トモ隱密
ノ探索ヲ遂ケ且其管轄地方官廳ヘ其者共ノ身分營業ノ摸樣其外ト
モ公然諮問ヲナシ銀行創立ヲ許可スルニ相當ナリト思考スルニ於
テハ右發起人等ニ創立證書並ニ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第四條 右紙幣頭ノ命ヲ受ルニ於テハ其發起人等ハ株金ノ募方(若シ
募ルヘキアラハ)ニ取掛ルヘシ而シテ株主一定ノ後ハ直チニ集會ヲ
催シ首メニ(入札公撰ヲ以テ)取締役五人以上ヲ撰舉シ此内ヨリ(前同
斷ノ方法ヲ以テ)頭取タルヘキ人ヲ定メ然ル後チ創立證書並ニ銀行
定款ヲ遞シトモ三箇月以内ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)之ヲ紙幣頭ヘ差
出スヘシ若シ右期月内ニ此差出方ヲ怠ルキハ前段ノ許可ハ取消シ

タルヘシ

第五條 右創立證書ノ雛形ハ左ノ如シ

——國立銀行創立證書

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣
ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治——年——月——日大
日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シテ國立
銀行ヲ創立シ其業ヲ經營セント謀リ私共即チ此創立證書第五
條ニ連署シタルモノ一致協力シテ當銀行ヲ創立シ左ノ創立証
書ヲ取極メ候也

第一條 當銀行ノ名號ハ——國立銀行ト稱スヘシ

第二條 當銀行ノ本店ハ——府——縣管下第——大區——小區——町——番地

法 商

ニ於テ設置スヘシ

(但シ支店ヲ置クハ其場所ヲモ竝ニ掲載スヘシ)

第三條 當銀行ノ資本金ハ一萬一千圓ニシテ(百五十圓ヲ以テ)一株トナシ總計一株ト定ムヘシ

第四條 當銀行ノ永續期限ハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十箇年間タルヘシ

第五條 當銀行株主ノ姓名住所其他並ニ各株主ノ引請ケタル株式ハ左ノ如シ

金額	引請株數	住所	株主ノ姓名屬族
一圓	一	府 <small>一</small> 番 <small>又ハ</small> 番ヨリ <small>一</small> 番ニ至ル府 <small>一</small> 管下第 <small>一</small> 大區 <small>一</small> 小區 <small>一</small> 町 <small>一</small> 番地 <small>一</small> 村 <small>一</small>	府 <small>一</small> 華士族 <small>一</small> 平民 <small>一</small> 何某
總計一圓	總計一		總計一

第六條 此創立證書ハ國立銀行條例ヲ遵奉シ銀行ノ業ヲ營ミ一同ノ利益ヲ謀ル爲メニ取極メタルモノニシテ其證據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號一 年一月一日

各株主連名印

右一 國立銀行創立證書ハ其株主等書面ノ通り記載約定シタル趣ヲ正實ニ保証スルニ付キ其證據トシテ余ハ茲ニ記名調印シ併セテ當廳ノ官印ヲ鈐シ候也

年號一 年一月一日

地方長官姓名印

地方官
應之印

紙幣察割

右一 國立銀行創立證書ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ本寮ニ受取リ其事ヲ承認シタル證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉

商法

印シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐シ以テ其銀行ヘ下付スルモノ也

年號一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣
寮之印

第六條 右銀行定款ノ雛形ハ左ノ如シ

——國立銀行定款

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シ當銀行ヲ創立スル爲メ其株主等協儀ノ上決定スル所ノ條々左ノ如シ

銀行名號ノ事

第一條 當銀行ノ名號ハ——國立銀行ト稱スヘシ
本文店設置ノ事

第二條 當銀行ノ本店ハ——府管下第一大區——小區——町——番地ニ於テ設置スヘシ
(但シ支店ヲ置クキハ其場所ヲモ茲ニ掲載スヘシ)

資本金ノ事

第三條 當銀行ノ資本金ハ——萬——千圓ニシテ——(百廿五)圓ヲ以テ一株トナシ總計——株ト定ムヘシ
但シ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ株主等ハ其所持株數ノ割合ニ準シテ此資本金ヲ増減スルヲ得ヘシ尤増加ノ節ハ時宜ニヨリ新ニ株主ヲ募ルコトアルヘシ

第四條 何人ヲリトモ(外國人ヲ除クノ外)苟モ當銀行ノ規則ヲ奉シテ其株式ヲ引受ケタルモノハ都テ當銀行ノ株主タルヘシ

株式券狀ノ事

第五條 各株主タルモノハ其引請ケタル株式一箇ニ付キ株式券狀一通宛ヲ領受スルノ權利アルヘシ但シ其雛形ハ左ノ如シ

(茲ニ銀行株式券狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第六條 當銀行ノ株式ハ國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ頭取取締役ノ許可ヲ受ケ當銀行ノ簿冊ニ引合セタル上ニテ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ヘシ尤其株式券狀ノ書替ヲナサハル時ハ當銀行ヨリ割渡スヘキ利益金ハ新故ヲ論セス其株式券狀

ノ名前入ヘ渡スヘシ

頭取取締役撰舉ノ事

第七條 當銀行ノ取締役ハ一(三十)株以上ヲ所持スル株主ノ内ヨリ五人以上ヲ撰舉スヘシ其撰舉ノ初集議ハ一月一日一街ニ於テスヘシ

但シ各取締役ハ右株式券狀ヲ當銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ証書ヲ請取り置キ右取締役奉職中ハ決シテ之ヲ引出スコトヲ得サルヘシ

第八條 取締役ノ衆議ヲ以テ其中ヨリ一人ヲ撰ミ之ヲ頭取トナスヘシ此頭取及ヒ取締役ノ在職年限ハ一ケ年ヲ以テ限リトスヘシ尤頭取取締役タル者其任ニ堪ヘサルカ或ハ取締役等ノ三分二以上ノ協議ヲ以テ退任セシムルハ此例ニアラス

(但シ副頭取ヲ撰任スル時モ亦本條ニ準スヘシ尤此副頭取ハ頭取欠席スル時其事務ヲ代理スルマテニシテ平日ハ取締役ト同様タルヘキ旨ヲ掲載スヘシ)

第九條 頭取取締役等ハ銀行ノ事務ヲ取扱フヘキ支配人並ニ書記方出納方計算方簿記方等ノ諸役員ヲ撰任シ又右ノ諸役員等ノ給料ヲ取定メ銀行ノ得失ヲ考ヘ同僚ノ衆議ヲ經テ此役員等ヲ進退黜陟スルノ權アルヘシ

但シ頭取取締役等ハ銀行ノ支配人以下諸役員等ノ職掌ヲ分課シ其身元ノ引受人ヲ約シ過怠金ヲ豫定スルノ權アルヘシ

第十條 頭取取締役等ハ又向後ノ取締役撰舉ノ法ヲ定メ此撰舉ノ衆議ニ異論起ル時ハ之ヲ裁決スヘキ裁決役ヲ取定ムル

ノ權アルヘシ

第十一條 頭取取締役等ハ都テ銀行條例成規ノ旨趣ヲ遵奉シ適任ノ職務ヲ執行スルノ權アルヘシ尤條例成規ノ要旨ヲ遵奉シテ厚當銀行ノ便益ヲ謀リ萬般ノ事務ヲ注意處分スヘシ但シ頭取取締役等ノ失職ハ國立銀行條例中ノ罰令ニ從テ各共責ニ任ス可シ

第十二條 頭取取締役等ハ當銀行ノ處務ニ緊要ナル申合せ規則ヲ議定スルノ權アルヘシ

總會ノ事

第十三條 第一次ノ總會ハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ後一箇月以内ニ取締役取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ第十四條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月一日第七月一日ニ

頭取取締役取極ムル所ノ場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ
但シ取締役ノ撰擧ハ毎年第一月ノ總會ニ於テ之ヲ決定施
行スヘシ

第十五條 右總會ハ都テ定式總會ト稱シ其他ノ總會ハ都テ臨
時總會ト稱スヘシ

第十六條 頭取取締役ハ何時ニテモ適當ナリト思考スルニ於
テハ臨時總會ヲ招集スルヲ得ヘシ又人員十名ニ下ラス其
所持ノ株數當銀行總株ノ五分一ニ下ラサル株主等ヨリ書面
ヲ以テ臨時總會ノ請求アルニ於テハ何時ニテモ之ヲ招集セ
サルヲ得サルヘシ
但シ右請求書ニハ此總會ヲ要スル事件目的ヲ記載シ之ヲ
本店ヘ差出スヘシ

第十七條 取締役ハ右請求書ヲ受取レハ直チニ此總會ノ招集
ニ取掛ルヘシ

但シ取締役右請求書ヲ受取リシ日ヨリ七日以内ニ總會招
集ノ手續ニ取掛ラサルキハ其請求人等自身ニ之ヲ招集ス
ルカ又ハ他ノ株主等ト相謀テ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第十八條 凡ソ總會ニ於テ其事務ヲ評議處分スルニ當テハ必
ズ株主ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之レニ出席スル
ニ非レハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ着手ス
ヘカラス

第十九條 若シ總會ノ刻限ヨリ一時間ヲ過キテ其定式ノ人員
臨席セサリシキハ之ヲ此會日ヨリ七日目ニ延會シ此會ト同
一ナル場所刻限ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第二十條 定式臨時ノ別ナシ總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任スヘシ

第二十一條 若シ右ノ議長タルモ總會ノ刻限ヨリ十五分時
間ヲ過キ猶ホ臨席セザリシキハ出席ノ株主中ヨリ一名ヲ撰
舉シテ之ヲ議長ト爲スヘシ

第二十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ決定スルニハ可否又ハ同意
不同意ナル發言投票ノ數多キモノヲ以テスヘシ而シテ決議
ニ次第ヲ銀行ノ簿冊ニ登錄シ議長之ニ記名調印シ以テ後
日ノ參觀證據ニ備ヘ置クヘシ

第二十三條 凡ソ總會ニ當リ發言投票ノ數相半スルキハ議長
ノ助說決要ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ
(此外總會ニ付キ緊要ナル箇條アラハ之ヲ掲載スヘシ)

株主發言投票ノ事

第二十四條 各株主ハ其所持ノ株數十箇迄ハ一株毎トニ一箇
宛ノ發言投票ヲ爲スヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ
一箇宛ヲ増加シ百一株以上八十株毎トニ一箇宛ヲ増加スヘ
シ

第二十五條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂癡其他ノ事
故アレハ)代人ニテモ若シカラス尤代人ハ左ノ委任狀ヲ以テ
共代人ヲラシムヘシ

(茲ニ委任狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第二十六條 當銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ發言
投票スルノ權利ヲ有スルコトヲ得ス又株式券狀ヲ當銀行ヘ借
財ノ爲メ質入シタル株主ハ自身又ハ他人ノ代人ニテモ一切

發言投票ノ權利勿カルヘシ

諸役員ノ事

第二十七條 當銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役 一人

内

頭取 一人

副頭取 一人(若シ之アラハ)

支配人 一人

書記方 一人

出納方 一人

計算方 一人

簿記方 一人

(銀行ノ適宜ニヨリ此他役員ヲ設クル者ハ右ニ準シテ茲ニ掲クヘシ)

但シ當銀行創立ノ際取締役ノ撰任アル迄ハ發起人ヲ以テ取締役ト見做スヘシ

第二十八條 頭取取締役タル者ハ當銀行營業ノ全體ニ注意シ一切ノ事務ヲ處分シ總テ其責ニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス

第二十九條 支配人ハ頭取取締役ノ差圖ヲ受ケ各掛リノ事務ヲ引請ケ其擔當ノ制限ニ依リ頭取取締役ニ對シテ之ヲ調理スルノ責ニ任スヘシ

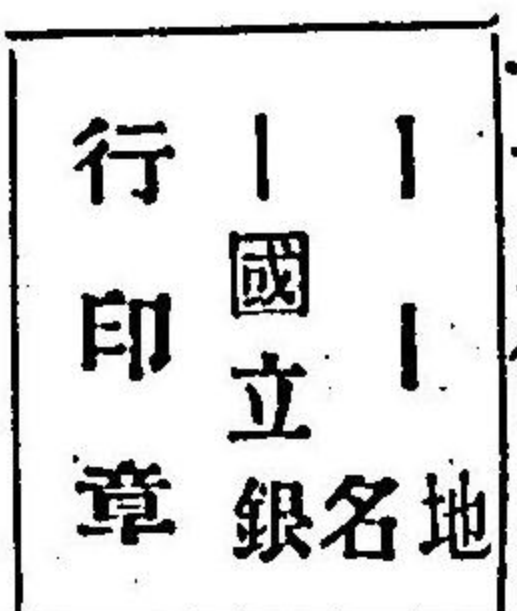
(右ノ外取締役ノ撰任其他凡ソ銀行ニ於テ緊要ナリトスル事件ヲ茲ニ掲載スヘシ)

營業一般事務ノ事

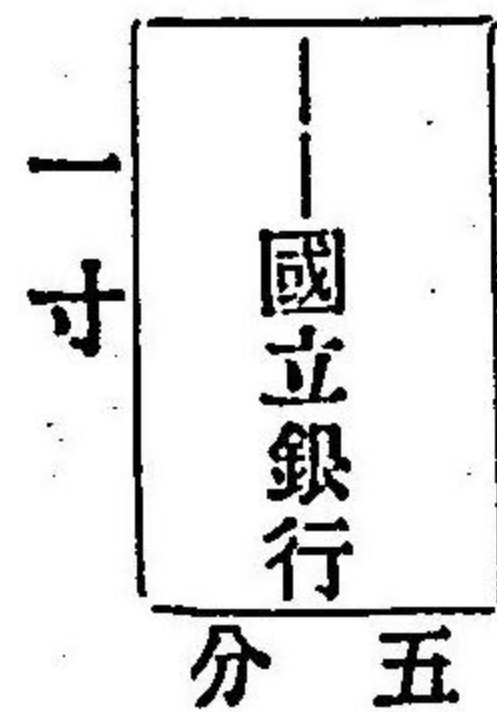
第三十條 當銀行ノ營業取扱時間ハ本店及ヒ支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄ヲルヘシ

第三十一條 休業ハ例月何日及ヒ定式ノ祝日祭日ニ限ルヘシ

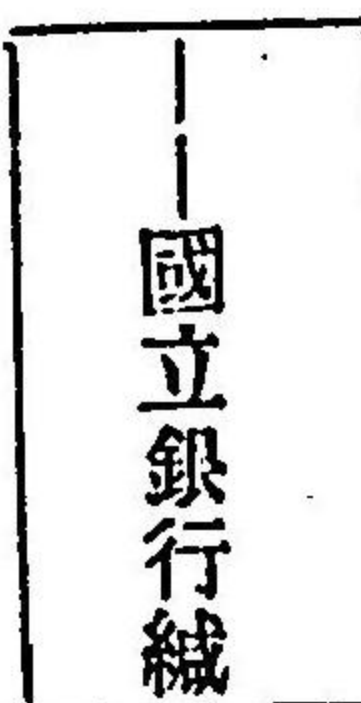
第三十二條 頭取取締役ノ衆議ヲ以テ決定シ當銀行ニ於テ用ウル所ノ本店(并ニ支店)ノ印章ハ即チ左ノ如シ



一寸八分四方



一寸



(此外事務取扱ノ方法ニ關スル諸規則ヲ茲ニ掲載スヘシ) 利益金分配ノ事

(茲ニ銀行ノ利益分配ノ方法其他ヲ掲載スヘシ)

諸計算ノ事

(茲ニ諸計算ニ於ケル諸簿冊並ニ檢閲其他ノ規則ヲ掲載スヘシ)

株主ヘ報告ノ事

(茲ニ銀行ヨリ株主等ヘ報告スルノ方法ヲ掲載スヘシ)

平穩鎮店ノ事

第三十三條 當銀行三分二以上株主等ノ協議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ平穩ニ鎮店スルヲ得ヘシ尤共鎮店ノ手續ハ總テ國立銀行條例ヲ遵奉シテ之ヲ施行スヘシ

銀行定款更正ノ事

第三十四條 此定款ノ箇條ハ當銀行株主等ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ何時ニテモ之ヲ更正加除スルヲ得ヘシ

右ノ條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定候其証據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致候也

年號一年一月一日

但シ此定款ハ株主等ノ議協ニヨリテ之ヲ草定シ追テ頭取支配人等定リシ上本紙正寫ノ二通ヘ左ノ與書ヲ加ヘ紙幣頭ヘ指出スヘシ

右一國立銀行定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一通正寫一通ヲ上呈シ他ノ一通ハ同文言ニテ髓ニ之ヲ銀行ニ藏メ置候仍テ其証

據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號一年一月一日

一國立銀行支配人

姓名印

同 頭取

姓名印

紙幣頭何某殿

銀行ヘ藏メ置クヘキ正寫ノ與書ハ左ノ如シ

右ハ一國立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其本紙並ニ正寫一通ツハ規則ノ通り之ヲ紙幣寮ヘ差上候仍テ其証據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號一年一月一日

一國立銀行頭取

姓名印

同

支配人

姓名印

紙幣察割印

右ハ——國立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ當察ニ
受取リ其事ヲ承認シタル證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲
ニ記名調印シ併セテ本察ノ官印ヲ鈐シ以テ其銀行ヘ下付スル
ノモ也

年號——年——月——日

紙幣頭姓名印

紙幣
察之印

但シ創立證書ハ國立銀行ヲ創立スルニ於テ政府ト其銀行トノ約
定書ニ比シキ緊要ノ書面ニシテ自ラ銀行定款ト異ナル者ナリ銀
行定款ハ全ク銀行株主等ノ取定メタル社中ノ規則ニシテ政府ニ

關係アル者ニ非ス故ニ銀行ノ役員ヨリ株主等ニ至マテ苟モ此別
ヲ誤ルヘカラス

第七條 紙幣頭ハ右創立證書並ニ銀行定款ヲ相當ト思考スルニ於テ
ハ其開業免狀ヲ其銀行ヘ下ケ渡スヘシ然ル後其銀行ハ始メテ名號
ヲ公稱シ其業ヲ始ムルヲ得ヘシ

但シ紙幣頭ヨリ開業免狀ヲ下ケ渡サハル内ハ創立ニ付テ差起ル
事故及ヒ開業前緊要ナル件々ノ外決シテ銀行營業ノ事務ヲ取扱
フヘカラス

第八條 右開業免狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

開業免狀

——府管下第一大區——小區——町ニ於テ創立スル——國立銀行ヨ

紙幣
 差出シタル創立證書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ヨリ發行ス
 所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之
 引換フル儀ニ付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施
 行シタル國立銀行條例ノ手續ヲ履行シタルコト分明ナルニ付今
 此開業免狀ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ國立銀行ノ業ヲ營ム
 コトヲ許可スルモノ也

右ノ證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セ
 テ本寮ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年號 一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣
 寮之印

但シ右開業免狀ヲ得タル上ハ直チニ其事業ヲ經營スルヲ得ヘキ

ニ付火盜ノ難ヲ防カンカ爲メ堅固ナル金庫ヲ建築スヘシ

○株金募方ノ事

第九條 株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告
 スヘシ即チ何縣府管下第何大區何小區何村何番地ニ於テ何々ノ方法
 ヲ以テ國立銀行ヲ創立スルニ付其組合ニ加入セント欲スル人々ハ
 何月何日ニ何街何屋ニ來ルヘシ發起人何ノ誰々等ト記載スヘシ

第十條 當日ニ至ツテ右何街何屋ニ於テ發起人等簿冊ヲ開キ其銀行
 ノ組合ニ加入セント申込ミタル人々ノ姓名並ニ入金スヘキ金額ヲ
 其簿冊ニ書込ミ何月何日迄ニ入金スヘキ旨ヲ取定ムヘシ

第十一條 入金ノ當日ニ至テ入金者ハ各其簿冊ニ書込ミタル金額ヲ
 其發起人方ヘ持參スヘシ而シテ其發起人等ハ其金子引替ニ左掲載セ
 ル入金受取證書ヲ其入金者ヘ渡スヘシ

商法

但シ此書込ニテ集金ノ員額發起人等ノ見込員額ヨリ多キハ
割引ヲ以テ入金者ノ出金員額ヲ減少スルカ又ハ銀行ノ資本金額
ヲ最初ノ見込ヨリ増加スルトモ共發起人等ノ存意ニ任スヘシ

半高入金受取証書

割 印
一金一圓也

右ハ今般創立ノ一國立銀行株式ノ内一株ノ半高一株ニ付一
圓ノ割合ヲ以テ最初ノ入金トシテ書面ノ通正ニ落手致シ候右
株式券狀ハ追テ總月賦入金相濟候上ニテ交付可致候仍テ爲後
証如件

年號一 年一 月一 日

一 國立銀行發起人

連 名 印

何 某 股

○資本金月賦入金ノ事

第十二條 國立銀行ノ資本金ハ開業前必ス其半高ヲ株主等ヨリ銀行
ヘ入金シ残り半高ハ五箇月ニ割合ヒ之ヲ入金スヘシ

例ヘハ資本金拾萬圓ノ銀行ナレハ

- 一月十五日開業迄ニ入金高 五萬圓
- 二月十五日迄ニ入金高 壹萬圓
- 三月十五日迄ニ入金高 壹萬圓
- 四月十五日迄ニ入金高 壹萬圓
- 五月十五日迄ニ入金高 壹萬圓
- 六月十五日迄ニ入金高 壹萬圓

合計拾萬圓

法 商

右ノ如ク開業ノ日ヨリ算シテ毎月入金スヘシ尤六箇月前ニ悉ク入

金シ又ハ開業前ニ資本金總額ヲ入金スルハ其銀行ノ適宜タルヘシ
但シ銀行ニ於テ右月賦入金ヲ請取ルルハ左ノ請取證書ヲ株主ヘ渡
スヘシ

第一回月賦入金請取證書

割 印 一金一圓也

右ハ當一國立銀行株式ノ内一番ヨリ一番マテ一株ノ第一回
月賦入金一株ニ付一圓ノ割合ヲ以テ書面ノ通正ニ落手致候右
株式券狀ハ追テ總月賦入金相濟候上ニテ交附可致候仍テ爲後
証如件

年號一 年一 月一 日

一 國立銀行支配人

銀行 之 印

同 姓名 印 頭取

姓名 印

何 某 殿

○資本金集合高申牒ノ事

第十三條 株主等ヨリ月賦金ヲ其割合ニ從ヒ入金スルルハ其月賦總
入金濟迄ハ毎月其銀行ヨリ資本金集合高届書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘ
シ其文例ハ左ノ如シ

資本金集合高届書

一 府管下第一大区一小区一村ニ創立シタル一國立銀行ノ資
本金トシテ一萬一千圓ノ第一回月賦ヲ株主等ヨリ入金イタシ
是迄ノ入金ニ加算シ總高一萬一千圓ト相成候也

年號一 年一 月一 日

一 國立銀行支配人

銀行 之 印

姓名 印

之印

同

頭取

姓名印

紙幣頭何某殿

○資本金増減ノ事

第十四條 國立銀行ハ條例第四十條ニ準據シ其資本金額ヲ増加スル
ルハ速ニ資本金増加証書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金増加証書 一 府管下第一 大區 一 小區 一 町 一 國立銀行

元株數并金額	増株數并金額	合計	住	所	姓 名
一 株 一 圓	一 株 一 圓	一 株 一 圓	府管下第一 大區 小區 町 村 番地	府 縣 華 土 族 平 民	何 某
合 一 株 一 圓	合 一 株 一 圓	總 計 一 株 一 圓			

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金増加仕候現額書面ノ通相違無
之候也

年號 一 年 一 月 一 日

一 國立銀行支配人

銀 行
之 印

同

頭取

姓名印

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也

地 方 官
應 之 印

地方長官姓名印

法 商

紙幣察

右 一 國立銀行資本金増加証書ヲ差出スニ付年號 一 年 一 月 一 日
日 余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル証據トシテ茲ニ記

割名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈴スルモノ也
年號 年 月 日

紙幣頭姓名印

紙幣
寮之印

但シ右ノ書面ヲ差出サハ紙幣頭ハ奥書并ニ鈴印シテ之ヲ其銀行
ヘ下付スヘシ銀行ハ此奥書ヲ得タル上ニテ公債証書ヲ預ケ銀行
紙幣ヲ請取ルノ手續ニ取掛ルヘシ

第十五條 國立銀行ハ條例第四十二條ニ準據シ其資本金ヲ減少スル
キハ諸般ノ手續ヲ經テ後チ紙幣頭ヘ其資本金減少証書ヲ差出スヘ
シ其文例ハ左ノ如シ
但シ減少ノ手續ハ其銀行紙幣ヲ紙幣寮ニ返上シテ燒捨ノ手續ヲ
ナシ共同額ノ公債証書ヲ紙幣頭ノ手ヲ經テ出納頭ヨリ取戻スヘ

法商

シ而シテ其準備金モ亦之ニ準シテ減少スヘシ

資本金減少証書

府管下第一大區 小區 町 村 國立銀行

減少株數并金額	殘株數并金額	住	所	姓	名
株 圓	株 圓	府管下第一大區 小區 町 村	番地	府華士族平民	何某
合 株 圓	合 株 圓				

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金減少仕候高并ニ殘現額共書面
ノ通相違無之候也

年號 年 月 日

國立銀行支配人

銀行

姓名印

之印

同

頭取

姓名印

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也

地方長官姓名印

地方官

地方長官姓名印

廳之印

紙幣察割印
右一國立銀行資本減少証書差出スニ付年號一年一月一日
余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル証據トシテ茲ニ記名
印ヲ併セテ本察ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年號一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣
察之印

右増減証書ハ各二通宛ヲ紙幣察ニ出シ其一通ヘハ前ノ文例ノ如ク
紙幣頭與書鈐印シテ其銀行ヘ下付スヘシ

○公債証書預方ノ事

第十六條 國立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ四朱以上利付ノ公債証
書ヲ買入レ之ヲ出納頭ニ預クヘシ右ハ其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣
ノ抵當ナレハ其銀行ノ資本金額十分八ノ割合ニシテ即チ銀行ニ受
取ルヘキ銀行紙幣ト同額タルヘシ(條例第十八條二十二條ヲ參考ス
ヘシ)

第十七條 出納頭ハ右公債証書ヲ領受シ直チニ假請取書ヲ其銀行ヘ
下付シ追テ紙幣頭連名ノ本請取証書ヲ製シ其假受取書ト引換フヘ
シ

○銀行紙幣注文ノ事

第十八條 國立銀行ハ右公債証書ノ請取書ヲ領受セハ其銀行ヨリ發行スヘキ銀行紙幣ノ受取方ヲ頭取支配人ヨリ注文書ヲ以テ紙幣頭ヘ申立ツヘシ其文例ハ左ノ如シ

銀行紙幣注文書

但シ條例第四十六條ニ準據シテ此注文書ヲ差出ス可シ

府 縣管下第一大区 小區 町ニ創立シタル 國立銀行ニ於テ國立銀行條例ニ從ヒ一萬一十圓ノ銀行紙幣ヲ發行致シ度ニ付左ニ掲載スル種類員額ノ紙幣製造ノ上御渡被下度候也

銀行紙幣種類	枚	數	金額
圓	一	枚	圓
圓	一	枚	圓
圓	一	枚	圓
圓	一	枚	圓

法商

右銀行紙幣ノ抵當トシテ出納頭ニ預ケタル公債証書ノ現額ハ左ノ如シ

公債証書ノ種類 金額枚數	利息	實價割合	金額
公債証書 圓 枚	朱	百圓ニ付 圓	圓
一圓一枚	朱	百圓ニ付 圓	圓
			合計 圓

右之趣謹テ奉願候也

年號十年一月一日

國立銀行支配人

銀行之印

同

姓名印
頭取
姓名印

紙幣頭何某殿

第十九條 右銀行紙幣ノ注文書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ條例第四十七條ニ準據シ銀行紙幣ヲ製造シテ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ而シテ其銀行ハ之ヲ受取リテ後チ受取証書ヲ差出ス可シ其文例ハ左ノ如シ

銀行紙幣請取証書

銀行紙幣種類	枚	數	金額
圓	1	1	圓
圓	1	1	圓
合計	1	1	圓

合計 1 枚 合計 1 圓

右ハ當 1 國立銀行發行紙幣トシテ正ニ請取候也

年號 1 年 1 月 1 日 1 國立銀行支配人

銀行之印

同

姓名印
頭取
姓名印

紙幣頭何某殿

銀行紙幣發行ノ事

第二十條 國立銀行ニテ右銀行紙幣ヲ領受スルニ於テハ頭取支配人ノ兩人一々其紙幣ノ表面ニ其役名及ヒ姓名ヲ記入シ其役印ヲ押捺シテ後チ之ヲ世上ニ發行スヘシ若シ其記入押捺ノ際損傷等ノモノアルニ於テハ更ニ其趣ヲ紙幣頭ニ申立テ其損傷紙幣ヲ納メテ引替

ヲ乞フ可シ

但シ頭取支配人ハ其印影ヲ紙幣頭へ差出シ其紙幣押印ノ用肉ヲ紙幣察ヨリ受取ルヘシ

○損壞銀行紙幣引換方ノ事

第二十一條 國立銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルキハ條例第五十一條ニ準據シ頭取支配人ヨリ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣頭ニ差出シテ其引換ヲ請フヘシ其文例ハ左ノ如シ但シ記名押印ノ際損傷シタル銀行紙幣ノ引換モ亦タ此例ヲ以テ申立ヘシ

記

銀行紙幣種類	枚	數	金額
圓	1	枚	1圓

商法

1	圓	1	枚	1	圓
合計	1	枚	合計	1	圓

右ハ當銀行發行紙幣ノ内敗裂(或ハ汚染)ニテ通用難相成分書面之通差上候處相違無之候
右敗裂(或ハ汚染)ノ銀行紙幣ハ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ燒捨ノ立合可仕候尤燒捨濟ノ上右同種同額ノ新銀行紙幣ヲ御渡シ可被下候此段奉願候也

年號1年1月1日

1國立銀行支配人

銀行
之印

同

姓名印

頭取

姓名印

紙幣頭何某殿

紙幣頭ハ右敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ請取ヲハ其代リ新銀行紙幣
ヲ以テ之ヲ其銀行ニ下附スヘシ

第二十二條 紙幣寮ニ於テ右銀行紙幣ヲ燒捨ノ節ハ其趣ヲ銀行ヘ通
達アルヘキニ付銀行ハ立合人ヲ紙幣寮ニ差出シ燒捨所ニ於テ立合
實驗ノ上燒捨證書ニ記名調印スヘシ尤此燒捨證書ハ二通ニ認メ一
通ハ紙幣寮ニ藏メ一通ハ之ヲ其銀行ニ下附スヘシ右ノ立合ニハ大
藏省ニ關係ナキ人ヲ撰テ銀行ヨリ差出スヘシ

但シ遠隔ノ地方ニ創立シタル銀行ハ東京ニ於テ豫テ燒捨ノ立合

人ヲ頼置キ其姓名住所ハ之ヲ紙幣寮ニ届ケ置クヘシ

第二十三條 國立銀行ヨリ引換ノ爲メニ紙幣寮ニ差出スヘキ敗裂或
ハ汚染ノ銀行紙幣ハ五百圓以上ノ高タルヘシ其銀行紙幣ハ消印ヲ
押シ種類ヲ分チ其封套ニ其金額ヲ記載シ前第二十一條ニ掲グル所
ノ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣寮ヘ差出スヘシ尤此紙幣引替ニ付往復運送
ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スヘシ

但シ數片ニ細裂シタル銀行紙幣アラハ銀行ノ役員之ヲ連接シテ
差出スヘシ

第二十四條 敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參シ引換ヲ乞フ
者アラハ銀行ノ役員ハ其金額ノ數位ニ注目檢査シテ之ヲ引換フヘ
シ尤敗裂シテ其紙片ノ全備セサルモノト雖モ大藏卿ノ印章アルニ
於テハ之ヲ引換フヘシ

商法

年號 一年一月一日

府管下第一大区 小區 町 番地

賣渡人 姓名 印

府管下第一大区 小區 町 番地

買受人 姓名 印

府管下第一大区 小區 町 番地

證人 姓名 印

國立銀行

御中

第二十九條 右株式賣買ノ簿冊ハ每半季定式總會以前日數十五日ノ間ハ之ヲ閉鎖シ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告シテ一切其事ノ取扱ニ從事セサルコトヲ得ヘシ

○株式讓與ノ事

第三十條 銀行株主ノ内死去スル者アリテ其相續人若クハ後見人ノ右株式ヲ讓受クヘキモノハ銀行ノ要求セル然ルヘキ證據ヲ差出シタル上ニテ其銀行ノ株主トシテ株主牒ノ記載ニ入ルコトヲ得ヘシ

○株式没入ノ事

第三十一條 銀行ノ株主等若シ株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ハ條例第三十二條第三十三條ニ準據シテ之カ處分ヲナスヘシ

○總會ノ事

第三十二條 第一次ノ總會ハ銀行其開業免狀ヲ受ケシヨリ以後三箇月以内ニ於テ其頭取取締役ノ取極メタル時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第三十三條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月第七月(何レモ然ルヘキ日ニ於テ)頭取取締役ノ取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

商法

第三十四條 凡ソ總會ハ定式臨時ノ二様ニ分チ前條ニ掲載シタル總會ヲ定式總會ト稱シ此總會ニ於テハ總勘定ニ於ケル正算指示ノ事並ニ利益金分配ノ事及ヒ頭取支配人ヨリ差出ス所ノ平常處務ノ頓末ヲ記載シタル書類ヲ稽查審按スル等ノ事ヲ施行スヘシ其他ノ總會ヲ臨時總會ト稱シ臨時ニ起ル所ノ事件ヲ評議處分スヘシ

第三十五條 凡ソ總會ヲ執行ハントスルニ當ツテハ其取極メタル時日場所ヲ報告書ニ記載シ(若シ格段決議ニ付スヘキ事件アレハ其大旨ヲモ加載シ)少ナクトモ日數七日以前ニ於テ之ヲ總株主ヘ通知スヘシ而シテ右ノ如ク手數ヲ爲セシ上ハ假令ヒ株主ノ内右報告書ヲ受承セサルモノアルトモ此總會ノ手順ニ於テハ既ニ盡セシモノト爲スヘシ

但シ銀行ヨリ株主ヘ報告スルノ書類ハ之ヲ直達スルカ又ハ郵便其他ノ手續ヲ以テスルモ都テ銀行ノ便宜ニ任スヘシ

第三十六條 銀行ノ頭取取締役ニ於テ適當ナリト思考スルカ又ハ株主ノ人員十名ニ下ラスシテ其所持ノ株數總株ノ五分一以上ニ及フモノヨリ之ヲ請求スルカニ於テハ何時ニテモ臨時總會ヲ執行フヲ得ヘシ

第三十七條 右株主等ノ請求ハ之ヲ書面ニ認メ此總會ヲ請求スル所以ノ目的事件ヲ詳載シ郵便其他ノ手續ヲ以テ之ヲ頭取取締役ヘ送達スヘシ

第三十八條 頭取取締役ハ右請求書ヲ領受セハ直チニ其總會招集ノ事ニ取掛ルヘシ若取締役右請求ヲ承知セシ日ヨリ日數七日ノ内ニ招集ノ手續ヲナサハルモ右請求人等自身ニ之ヲ招集スルカ又ハ

其他ノ株主等ト相謀テ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第三十九條 凡ソ總會ニ於テ事務ヲ評議處分スルニ當ツテハ必ス株主ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之ニ出席スルニ非サレハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ評議處分スヘカラス

第四十條 凡ソ總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任スヘシ

第四十一條 右議長若シ會集スヘキ刻限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶ホ臨席セサリシキハ出席株主等ノ内ヨリ一人ヲ公撰シ以テ議長ト爲スヲ得ヘシ

第四十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニハ(可否又ハ同意不同意ノ發言若シクハ投票ニテモ)其說ノ多數ニ因リ以テ之ヲ決定シ其次第ヲ簿冊ニ登錄シ併セテ其決議ニ旨ヲ加載シ其節ノ議長之ニ檢印シ以テ後日ノ參觀証據ニ備ヘ置クヘシ

第四十三條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニ若シ發言投票ノ數相半ハスルキハ議長ノ助說若シクハ決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ

○株主發言投票ノ事

第四十四條 銀行ノ株主等ハ各所持セル株數十箇迄ハ一株毎トニ一箇宛ノ發言投票ヲナスヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一箇宛ヲ増加シ百一株以上ハ十株毎トニ一箇宛ヲ増加スルトト定ムヘシ

第四十五條 凡ソ銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スルトヲ得ス又株式券狀ヲ借財ノ爲メ其銀行へ質入シタルモノハ總會ニ於テ自身又ハ他人ノ名代ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

第四十六條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂癪其他ノ事故アル

ニ於テハ代理人何レモ勝手タルヘシ尤代人ハ共銀行ノ株主中ノ者ニ
限リ之ニ委任狀ヲ與ヘ以テ之ヲ差出スヘシ若シ其代人ヲ差出サス
シテ決議ノ後如何ナル異議アルモ一切之ヲ申立ツルコトヲ得サルヘ
シ

第四十七條 右代人委任狀ノ雛形ハ左ノ如シ

委任狀ノ事

年號一年一月一日——國立銀行ノ定式(又ハ臨時)總會及ヒ其延
會ニ於テ何某ヲ拙者代人トシテ發言投票爲致候仍テ委任狀如件
年號一年一月一日 —— 國立銀行株主

姓名印

——國立銀行

御中

○諸役員ノ事

第四十八條 國立銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役 何人

内

頭取 一人

副頭取 何人(若シ之アラハ)

支配人 何人

書記方 何人

出納方 何人

計算方 何人

簿記方 何人

但シ右ノ如シ制定スト雖モ銀行ノ便宜ニ依リ之ヲ廢置兼攝シ若

シテハ其他ノ役員ヲ設置スルヲ得ヘシ尤取締役ノ人員ハ(頭取副頭取ヲ加ヘ)都合五名ヨリ減少スヘカラス故ニ若シ右ノ定員ヨリ欠クル時ハ株主一同ノ協議ヲ以テ速カニ其欠ヲ補フヘシ

第四十九條 國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ其銀行營業ノ全體ニ注意シ實際ノ事務ヲ處分シ總テ其責ニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ與シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス

第五十條 取締役ハ同僚中ヨリ(入札公撰ヲ以テ)其人ヲ撰舉シテ頭取(又ハ副頭取)ト爲スヘシ此頭取ハ銀行ノ事務ヲ總判シ及ヒ會議ノ席ニ於テ議長ノ職ニ任スヘシ

但シ副頭取ハ頭取欠席スルキ共事務ヲ代理スル迄ニシテ平日ハ

取締役ト同様ノ職任タルヘシ

第五十一條 左ニ掲ケシ人々ハ取締役タルヲ得ヘカラス

第一 銀行ニ於テ三十株又ハ六十株以上ヲ所持セサル株主

但シ資本金拾萬圓以上ニシテ一株百圓ノ銀行ナレハ三十株一株五拾圓ノ銀行ナレハ六十株又資本金拾萬圓未滿五萬圓以上ニシテ一株五拾圓ノ銀行ナレハ三十株一株二十五圓ノ銀行ナレハ六十株ノ割合タルヘシ

第二 一旦破産ニ遇ヒシ株主

第五十二條 取締役ノ人員三分二ハ本店設立ノ地方ニ於テ少ナクト

モ一箇年間住居セシモノタルヘシ

第五十三條 各取締役ハ其所持ノ株式券狀三十箇又ハ六十箇(前第五十一條中第一項ニ掲グル所ノ割合)ヲ其銀行ニ預ケ其代リトシテ禁

商法

授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ証書ヲ請取置キ右取締役ノ奉職中
ハ決シテ之ヲ引出スコトヲ得サルヘシ

第五十四條 頭取取締役タリトモ株主一同ノ協議ニテ取極メタル給
料旅費及ヒ賞與金手當并ニ株主ノ場ニテ受取ルヘキ分配利益金
外自餘ノ所得ヲ受クルコトヲ得サルヘシ

第五十五條 取締役ノ撰舉ハ定式總會ニ於テ株主一同ノ投票ヲ以テ
之ヲ撰舉スヘシ尤不時ニ欠員アルキハ臨時總會ニ於テ之ヲ撰舉ス
ヘシ

第五十六條 右ノ總會ニ於テ撰舉セラル、所ノ取締役ハ直チニ誓詞
ニ通ヲ認メ其地方長官ノ面前ニ於テ調印シ本紙ハ紙幣頭ニ差出シ
寫一通ハ其銀行ニ藏メ置クヘシ其文例ハ左ノ如シ

頭取ノ誓詞
取締役ノ誓詞

府管下第一大区—小区—町ニ於テ創立シタル—国立銀行
—縣管下第一大区—小区—町ニ於テ創立シタル—国立銀行

ノ取締役何某謹テ左ノ條々ヲ誓フ

私儀ハ—府ノ華士族ニシテ—縣管下第一大区—小区—町ニ居
住イタスニ相違無之事

當銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私關係ノ職掌ハ忠實ニ取扱フヘ
キ事

私在职中國立銀行條例成規ノ旨趣ハ一個條タリトモ決シテ犯
ス問敷又他人ヲシテ犯サセ問敷事

国立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ私儀當銀行資本金中ノ六十株

ハ自力ヲ以テ所持スルニ相違無之事

右ノ株式券狀ハ国立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ當銀行へ預ケ
置キ在职中ハ決シテ引出ス問敷候事

府管下第一大區一小區一村——國立銀行 頭取 姓名印

年號一年一月一日書面ノ者余カ面前ニ於テ調印シ捺約致シ候事相違無之候也

地方官 廳之印

地方長官姓名印

但シ此誓詞ハ取締役等各通タルヘシ

第五十七條 銀行ノ頭取支配人ノ撰舉サレタル時ハ新任ノ印影ヲ添ヘ上任ノ報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ最初撰舉ノ時差出ス所ノ上任報告ニハ文例中元役ヲ除クハ勿論ナルヘシ

上任報告

當一月一日何某儀ハ當國立銀行ノ頭取ニ選ハレ何某儀ハ支配人ニ命セラレ其印鑑ハ別紙ノ通ニ候也

年號一年一月一日

——國立銀行

銀行之印

紙幣頭何某殿

用紙美濃堅七寸幅二寸

元支配人 姓名印

元頭取 姓名印

新支配人 姓名印

新頭取 姓名印

年號一年一月一日何某代リ 何役撰舉

府華士族平民 縣

銀行之印

印鑑

小印

商所

姓名 年月

第五十八條 頭取取締役ハ其職務ヲ舉ル爲メ少クモ每月三度以上同僚中ノ集會ヲ爲シ以テ其事務ヲ評議處分スルコトヲ得ヘシ而シテ此集會ノ體裁方法ハ總會ノ手續ニ準據シ銀行ニ於テ然ルヘキ規程ヲ立テ以テ之ニ從事スヘシ

第五十九條 頭取取締役在職ノ年限ハ一期必ス滿一箇年タルヘシ而シテ退役放免等ノ外ハ奉職ノ年限中必ス勤仕スルモノト爲スヘシ但シ頭取取締役ノ在職年限ハ本條掲グル所ノ如シト雖モ其滿期ニ至リ更ニ入札公撰ヲ以テ重年上任スルヲ得ヘシ尤重年上任シタルキハ第五十六條五十七條ニ準據シ更ニ誓詞并ニ上任報告ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第六十條 支配人以下ノ撰舉並ニ給料等ハ頭取取締役ノ意見ニ因リ之ヲ取極ムヘシ尤支配人ハ銀行ノ事業ヲ處分スル重任ナレハ株主ニ非ル者ニテモ須ラシ熟練ノ人ヲ撰フヘシ且其他ノ役員モ亦他人ヲ雇入ルハ其銀行ノ便宜ニ任スヘシ

○社中申合規則ノ事

第六十一條 頭取取締役ハ其同僚ノ衆議ヲ盡シ利益金分配ノ手續諸役員ノ權限分課給料旅費ノ定則及ヒ其褒貶進退其他一切緊要ナル事件ヲ適宜掲載シタル社中申合規則ヲ議定スヘシ尤右申合規則ハ條例成規ノ旨趣ニ背反セサルハ勿論タリト雖モ其社中ノ申合ニ止ルヲ以テ更ニ紙幣頭ヘ差出スニ及ハサルヘシ

○利益金分配ノ事

第六十二條 頭取取締役ハ(株主ノ總會ヲ經テ)銀行ノ利益金ヲ株主諸々所持ノ株高ニ應シテ割渡スヘキ旨ヲ總株主ヘ報知スヘシ

○諸計算ノ事

第六十三條 銀行ノ出納其他一切ノ計算ニ關スル諸簿冊ハ紙幣頭差

圖スル所ノ書式ニ從ヒ明細嚴肅ニ記入スヘシ

第六十四條 頭取取締役ハ每半季考課狀及ヒ出納ノ明細書ヲ製シ總會ニ於テ之ヲ株主一同ヘ明示スヘシ

○諸願伺届等差出方ノ事

第六十五條 銀行ノ諸願伺届報告其他凡ソ諸官廳ヘ差出スヘキ一切ノ文書ハ必ラス本紙一通正寫一通都合二通宛タルヘシ

○國立銀行報告ノ事

第六十六條 國立銀行ハ銀行條例第七十七條ニ準據シ紙幣頭差圖スル處ノ書式ニ從ヒ半季及ヒ毎月其銀行營業ノ實際報告ヲ製シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ其報告ノ種類ハ左ノ如シ

但シ右報告用紙ハ相當ノ代價ヲ以テ紙幣寮ヨリ拂下クヘシ

第一 銀行半季考課狀

第二 銀行半季實際報告

第三 銀行半季利益金割合報告

第四 銀行半季平均高報告

第五 銀行年中平均高報告

第六 株主姓名表

右六種ノ報告ハ第一月十日第七月十日マテ紙幣頭ヘ差出スヘシ

尤遠隔ノ地方ニ本店又ハ支店ヲ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ

第七 銀行本店毎月實際報告

第八 銀行支店毎月實際報告

右二種ノ報告ハ毎月五日マテニ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤遠隔ノ地方

ニ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ但シ支店毎月報告ハ其本店ヲ經ルニ及ハス共支店ヨリ直チニ紙幣頭へ差出スヘシ右ノ外紙幣頭ノ考按ニヨリ臨時實際ノ報告ヲ差出サシムルコトアルヘシ尤右臨時報告ノ差出方ハ其時々紙幣頭ヨリ命スヘシ

右之通相定候事

明治九年八月一日

太政官

圖十一年三月三日太政官御布告第五號

明治九年(八月)第百六號布告國立銀行條例第十八條左ノ通改正シ明治十年(十二月)第八十三號布告同條例追加取消候條此旨布告候事

第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノハタルヘシ然レモ大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ惣額

ヲ制限スルコトアルヘシ故ニ新クニ創立ヲ願フ者アルモ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコトアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルコトアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四釐以上利付ノ公債證書ヲ(時價時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クベシ

但公債證書ノ時價低下スルモ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充タシムヘシ

○十一年五月四日太政官御布告第八號

明治七年十月第百七號布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

株式取引所條例

第一章 株式取引所創立及開業ノイ

第一條 株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行并諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ而シテ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書ハ其地方長官ノ與書ヲ受ケ之ヲ大藏省ヘ差出シ大藏卿ノ允許ヲ請フヘシ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クトモ拾名以上ニシテ其資本金額ハ二十万圓以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出スヘシ
第三條 大藏卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可スヘキヤ否ヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサルコトアルヘシ

第四條 發起人右創立許可ヲ受ケルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ

創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ與書證印ヲ受ケ之ヲ大藏省ヘ差出スヘシ

但創立證書及定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遲クトモ三ヶ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内ニ差出サルキハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ

第五條 右創立證書及定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ製造スヘシ然レモ必ス此條例ノ旨趣ニ抵觸スルヲ得サルヘシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或無限(有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限リ或ハ其株券ノ二陪等其限アルヲ云ヒ無限責任トハ株主一同相連帶シテ各自ノ資力ヲ竭スニ至ルヲ云フ)ヲ明

記シ必ス之ヲ遵守踐行スヘキ旨ヲ政府ニ對シ保證スルモノナリ
定款ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同共取引所ノ便宜ヲ商量決
定シテ互相確守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ
申合規則ハ賣買取引ニ付賣買主雙方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確
守スヘキ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條 大藏卿ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシ
ト思考スルニ於テハ之ニ與書證印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ共取引所
ニ上付シテ開業ヲ許スヘシ

但爾后取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及ヒ定款申合規則ヲ改正
加除セントスルキハ其時々大藏卿ノ認許ヲ受クヘシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保證ノ爲メ資本金高ノ三分二
以上ニ當ル現金又ハ公債證書(大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ)ヲ大

藏省ニ差出シ預置シヘシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ヶ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲナサス
又ハ開業セサルコアルキハ其免狀ハ取消タルヘシ

第八條 取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ヶ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得
ヘシ右滿期ニ至リ尙ホ營業セント欲スルキハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀並ニ創立證書
ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ
方法ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二章 株主并ニ株手形ノ事

第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式トナ
シ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條 株主ハ共取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帖

簿ヲ檢閲スルコトヲ得ヘシ

第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル
間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ
又ハ讓渡シヨナスコトヲ得ヘシ

第十四條 株主タルモノハ其取引所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテ
モ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人トナリタルキハ仲買人ノ規則
ヲ遵守スヘシ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三章 仲買人ノイ

第十五條 取引所ノ規定ニ從ヒ相當ノ身元金ヲ差入レ取引所ノ承認
ヲ得テ自ラ株式賣買ノ取引ヲナスモノヲ其取引所ノ仲買人ト稱ス
ヘシ

但仲買人ニ於テ假令他人ノ依頼ヲ受ケ賣買セシモノト雖モ取引
所ニ於テハ都テ仲買人ノ賣買シタルモノト看做スヘシ

第十六條 仲買人ノ身元金ハ少シモ百圓以上タルヘシ

第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ルヘシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケ
タル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サ
ルヘシ

○第四章 役員ノイ

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取

肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取
引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 取引所ノ肝煎ハ少クモ五名以上ト定メ株主ノ總會ニ於テ其取引所ノ規定ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰定シ又其肝煎ハ同僚中ヨリ頭取壹人ヲ推擧スヘシ而シテ支配人以下ノ諸役員ハ頭取並ニ肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主外ヨリ之ヲ撰任スヘシ

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差違レヲ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第二十三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定款中ニ記載スヘシ

○第五章 一般ノ規程

第廿四條 外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人ト爲スヲ得ス

第廿五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルヘシ

第廿六條 取引所ニ關係アル政府ノ官吏ハ其取引所ノ株主タルヲ許サス

第廿七條 取引所ノ役員タルモノハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第廿八條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行並ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第廿九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サス又之ヲ賣買スヘカラス

商 法

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

第卅一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ大藏省ヘ預クヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス

第卅二條 取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

第卅三條 取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其證據金及ヒ身元金ヲ以テ其違約ニ依リ相手方ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ償ハシムルニ止マルヘシ

第卅四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行

並諸會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルノ依頼ヲ受ルト雖モ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第卅五條 取引所ノ諸願伺届又ハ諸證書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等コレニ記名調印スヘキハ勿論ナレモ必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スヘシ

○第六章 賣買取引ノイ

第卅六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現物ノ受渡シヲ爲スヘシ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第卅七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ定金高百分ノ五宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シ其期限中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證據金增證據金等ヲ差入シ

ムルコヲ得ヘシ

第卅八條 約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第卅九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖モ其期日ニ至レハ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者及ヒ私ニ賣買ノ約定ヲ爲シ之ヲ公ニセサルモノ等ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ

○第七章 手数料ノコ

第四十一條 取引所ニ於テ收領スヘキ手数料ハ(賣買雙方ヨリ)其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ユヘカラス

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ノ關係スル他ノ債

主ニ先ツテ之ヲ收受スルコトヲ得ヘシ

○第八章 検査ノコ

第四十三條 大藏卿ニ於テ要用ト思考スルキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官へ達シテ其取引所ノ業体及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

○第九章 帖簿ノコ

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ大藏卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條 取引所ニ於テ製定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法ヲ詳細シ之ヲ大藏省へ届出ツヘシ

○第十章 諸報告ノコ

法 商

第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並株主仲買人ノ姓名等大藏卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

○第十一章 納税ノ事

第四十七條 此取引所ハ進テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ違ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

○第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實證アルキハ役員並ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラズ千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ
第四十九條 検査官員ノ命ヲ拒ミ帖簿書類等ヲ差出サ、ルカ又ハ其

疑問ニ答辨ヲ爲サ、ル者アルキハ頭取又ハ其主任者ニ十圓ヨリ少ナカラズ五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

○十一年五月九日大藏省布達甲第拾四號

今般太政官第八號ヲ以公布相成候株式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大坂ニ於テ一ヶ所宛ニ相限リ候筈ニ候條爲心得此旨布達候事

〔第四十七〕米商會所條例

○九年八月一日御布告第百五號

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度者ハ會社規則取調可願出旨明治七年十二月 第百三拾八號ヲ以布告候處令般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

米商會所條例

○第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノ爲メ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セントスル者ハ内務卿ノ免許ヲ請フヘシ

第二節 内務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際續之ヲ保續セント望ム者ハ更ニ其趣ヲ申立内務卿ノ免許ヲ請フヘシ

○第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三万圓以上タルヘシ

第二節 資本金ハ百圓ヲ以テ一株ト定メ發起人總員ニテ必資本金總

高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ

從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區

戶長ノ與書ヲ得會所創立證書及ヒ定款申合規則等ヲ添ヘ之レヨ地

方官廳ヘ差出スヘシ

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且其目的ノ利

害障礙ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議

ヲ取リ併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ内務

卿ヘ具申スヘシ

○第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタル時ハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ル事ヲ

得

第二節 發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ
定限ニ從ヒ差向キ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取等ヲ撰任スヘシ

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分ニ當ル現金或ハ日本政
府ノ公債証書 此公債証書ハ時々相場ノ昂低ヲ以テ増減スヘシト雖
スヘカヲ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ証書ヲ乞受
ケ其寫ヲ內務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月
何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上
ニ公告シ始メテ之ニ從事スル事ヲ得

○第四條 社印ノ用方並印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メノトスルニ當リ會所ノ印ヲ刻

シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ內務卿ニ差出
スヘシ若シ改刻スル者アル時ハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願伺届又ハ諸證書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ル
マテ會所一般ニ關スル事ハ其會所ノ名義ヲ用ヒ會所ノ印ヲ捺シ頭
取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

○第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任

ス

商 法

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナル事ヲ許サス

第三節 右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推任シテ新舊交代セシムヘシ

○第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ

俸給ヲ定メ社中差違ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議

ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スル事アルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節 肝煎ハ其同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アル時ハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之ヲ退職セシムル事ヲ得

○第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ經テ賣買本人又ハ仲買人ト爲ルヲ得

其場合ニ於テハ別段証人ヲ要セスト雖トモ仲買人タルノ身元金ヲ出サシムルコト第八條第三節ノ通りタルヘシ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第四節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ受タル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スコトヲ得ヘシ但其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ時發言ノ權ナシ又役員ノ撰擧ニ應スルコトヲ許サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受雙方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此證書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續キヲ爲サハル間ハ証書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 仲買人トハ肝煎ノ承認ヲ經相當ノ身元金ヲ差入レテ自己ノ賣買取引ヲ爲シ又ハ社外人ノ依頼ヲ受ケ仲買人ト爲リ之ニ從事スル者ヲ云フ但他人ノ依頼ヲ受ケ仲買ヲ爲シタルトキハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スヘシ

第二節 仲買人ヲラントスル者ハ會所ニ於テ定タル期日迄ニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ此書面ニハ姓名住所及丁年ナル事米商人タル事等ヲ詳記シテ之ニ調印シ且二三名以上証人ノ連印ヲ要ス

第三節 仲買人タルノ身元金ハ少シトモ百圓以上タルヘシ
第四節 仲買人退社セントスルトキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連滞シタル計算上ノ關係ナキヲ認メタル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ

返付シテ証人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條 商會所一般ノ規則

第一節 會所ニ於テハ仲買人ノ身元金及ヒ證據金ヲ使用スヘカラス

第二節 會所ハ賣買上ノ差違レヲ解キ違約ノ處分ヲ爲スノ義務アリ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必

ス現米金ノ受渡シヲ爲スヘシ但定期ノ分ト雖トモ其期限三ヶ月ヨ

リ永カルヘカラス

第二節 賣買ヲ約シタルトキハ賣買主ノ雙方ヨリ其約定ノ證據金ヲ

會所ニ預リ置クヘシ此證據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一宛ヲ

下ルヘカラス又此證據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ依リ追證據金増

證據金等ヲ差入レシムルコトヲ得ヘシ

第三節 賣買約定ノ期日ニ至ツテハ會所役員立會ノ上現米金ノ受渡

ヲ爲シ其取引ヲ終ルヘシ

第四節 定期約定期限内ニ甲ヨリ乙ニ賣リシ米ヲ乙ヨリ甲ニ買戻シ

又ハ甲ノ乙ヨリ買ヒシ米ヲ甲ヨリ丙ニ賣ル事ヲ得ヘシ但最初ニ定

メタル期日ニ至テハ必ス現米金ノ取引ヲ爲スヘシ

第十一條 手数料並ニ口錢ノ制限

第一節 會所ニ於テ賣買雙方ヨリ收領スヘキ手数料ハ賣買金高千分

ノ二ニ超ニヘカラス

第二節 仲買口錢ハ其頼人トノ示談ニ任スト雖モ會所ニ於テ豫メ共

制限ヲ立ルモ妨ケナシトス

第三節 手数料口錢ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關スル他ノ債主

ニ先ツテ之ヲ收受スルコトヲ得

第十二條 會議ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長ト爲ス此會議ニ

於テ發言ノ權ハ一人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ

決ス若シ可否ノ數相半ハスル時ハ議長ノ判決ニ任カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサル時ハ其議事ヲ始ム

ヘカラス但急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此

集會ハ頭取肝煎ノ撰擧及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ

主務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總

集會ヲ開クコトヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定

ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰擧スルモ妨ケ

ナシ

第十三條 資本金増減ノ手續

第一節 會所ニ於テ資本金高ヲ増減セントスル時ハ總集會ノ決議案

ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ内務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直ニ世上ニ公告シ其増減セシ名

前書ヲ取纏メタル上内務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル

營業保證ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總計算ヲ爲シ其内税金并ニ

積立金其他一切ノ社費ヲ引去リ残り損益高ヲ以テ株數ニ割り合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内内務卿ニ届出且世上ニ公告スヘシ

第十五條 納税ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節 會所ノ税金ハ明治八年五月第八十八號布告ニ照準シ前半分ハ七月中後半分ハ翌年一月中之ヲ地方官廳へ上納シ地方官ハ一般ノ收税手續ニ依リ租稅察へ送達スヘシ

第二節 株主等へ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當ルトキハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ内幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條 報告ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ株主及ヒ役員仲買人ノ進退又ハ賣買ノ實況等ヲ詳記シ之ヲ内務卿ニ申告スヘシ

第十七條 官員檢査規則

第一節 内務省又ハ地方官廳ヨリ時トシテ官員ヲ派出シ會所營業ノ模様其他諸帳簿等ヲ檢査セシムルコトアルヘシ若シ右ニ付疑問等アル時ハ逐一答辨ヲ爲スヘシ

第十八條 諸願届其他ノ書類上達ノ定規

第一節 會所ヨリ諸願届其他ノ書類及ヒ報告書共内務卿へ差出サントスルニハ都テ正副三通タルヘシ其正副トモ必ス捺印シテ地方官廳ヲ經由スヘシ

第十九條 罰則

第一節 會所ノ役員及株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者

株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル
實証アルトキハ役員並ニ本人トモ共事ノ輕重ニ依リ三十圓以上三
百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二節 官員檢査ノ節簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ
爲サ、ル者アルトキハ頭取又ハ其主任者へ五十圓以下ノ罰金ヲ科
スヘシ

第三節 會所限リ違約人ヲ處分シ過怠等ヲ申付ケルハ除名或ハ株金
身元金約定証據金ノ高二超ユヘカラス
右ノ通制定候事

○九年九月十一日內務省布達甲第三十四號
米油限月賣買被禁候以後取引取纏ノ爲メ延期ノ儀追々聞届置候向モ
有之處本年太政官第百五號公布ノ趣モ有之候ニ付テハ最前聞届候期

限内ノ外自今一切延期不相成候尤更ニ營業致度向ハ右公布及當省甲
第廿九號布達ニ照準可致此旨布達候事

○九年九月十一日內務省達乙第百號

府 縣

本年八月太政官第五號公布米商會所條例ニ照準シ會所創立候ニ付テハ條
例第三條第三節及當省本年甲第廿九號布達成規第一節二節ノ手續ヲ
以資本金總高ノ内三分二ニ當ル公價証書又ハ現金ヲ地方廳或ハ國立
銀行ニ預ケ候筈ニ付現品差出候ハ、其種類相當ノ請取証書ヲ與ヘ地
方廳ハ長官并其掛リノ者銀行頭取支配人勘定方等立會封印シ容易ニ
之ヲ轉動使用スルコトヲ得サラシムルノ手續ヲナシ置クヘシ且右預
リ現金ハ別ニ利子ヲ拂遣スニ不及候尤別段ノ約定ニ據リ預リタル時
ハ其方法約定ノ旨趣ヲ詳記シ當省へ可届出候此旨相達候事
但銀行へハ其所在管轄廳ニ於テ可相達事

法 商

〔第四十八〕米商會所成規

○九年八月一日內務省布達甲第廿九號

本年八月太政官第百五號公布米商會所條例ヲ遵奉シ營業致度者ハ自今別冊米商會所成規ニ照準出願可致此旨布達候事

但昨八年大藏省甲第拾六號同第拾九號及ヒ同年六月心得達ノ趣ハ取消候事

米商會所成規

目錄

- 第一條 會所創立出願ノ手續
- 第二條 開業ノ手續
- 第三條 營業報告ノ手續
- 第四條 諸願届其他書類用紙ノ事
- 第五條 記録保存ノ事

附

- 第一號 創立願書々例
- 第二號 創立證書々例
- 第三號 會所定款書例
- 第四號 申合規則書例

商法

米商會社成規

- 第五號 開業免狀雛形
- 第六號 實際報告書例
- 第七號 計算表書例
- 第八號 株主仲買人姓名表報告ノ書例
- 第九號 役員上任報告書例

米商會所成規

此成規ハ米商會所ノ條例ヲ遵奉シ該會所ヲ創立セント欲スル者ヲシテ其創立出願ノ手續及ヒ社則其他ノ標準等ヲ豫知セシメノカ爲メ之ヲ制定スルモノナリ

第一條 會所創立出願ノ手續

第一節 凡ソ米商會所條例ノ旨趣ニ基キ會所ノ發起人ヨリ差出ス可

キ創立願書ハ書例第一號ニ照準シテ之ヲ編製スヘシ

第二節 創立證書ハ會所ヲ創立スルニ付キ綱領ノ條件及ヒ株主ノ約

束ヲ明記シ總員ヲシテ必ス之ヲ確守踐行セシムヘキ旨ヲ保證スルモノナリ書例第二號ニ照準シテ之ヲ編製スヘシ

第三節 會所定款ハ會所ヲ創立スルニ付發起人該會所ノ便宜ヲ商量決定シテ株主一同ヲ約束スヘキ條款ヲ記載スルモノナリ書例第三

商 法

號ニ倣ヒ之ヲ編製スヘシ

第四節 申合規則ハ賣買取引ニ付キ賣買主双方ノ間ニ於テ會所ヘ對シタル約束ノ要件等ヲ記載スルモノナリ書例第四號ニ倣ヒ成ル可シ丈ケ綿密ニ之ヲ編製スヘシ

第五節 右ノ會所定款申合規則ハ發起人ニ於テ書例中ノ箇條ヲ省略シ或ハ之ヲ增加スルモ其便宜ニ任スヘシ

第六節 當省ニ於テ會所ノ創立ヲ承認スルキハ其創立證書及ヒ會所定款申合規則等ニ當省ノ印章ヲ鈐シ地方官ニ指令シ以テ之ヲ請願人ニ達セシムヘシ

第二條 開業ノ手續

第一節 發起人會所創立ノ許可ヲ受ケタル時ハ直ニ條例ノ旨趣ニ遵ヒ株主募集役員撰任等ノ順序ヲ經テ資本總高ノ内三分ノ二營業保

証ノ金額ヲ其地方廳或ハ國立銀行ニ預ケ以テ開業免狀請求ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 會所ヨリ地方廳又ハ國立銀行ヘ預ケル所ノ保證金若シ公債證書ナル時ハ夫レニ屬シタル定規ノ利子ハ會所之レヲ得ヘシト雖モ其他利子ヲ收受スルコトナカルヘシ尤別段ノ約定ニ據リ預ケタル時ハ其方法約定ノ旨趣ヲ詳記シ地方廳ヲ經テ之ヲ當省ニ届出ヘシ

第三節 當省ニ於テハ會所ノ名ヲ以テ地方廳或ハ國立銀行ニ預ケタル現金或ハ公債證書ノ實額其會所資本總高ノ三分ニ相違ナキ確證ヲ檢シ其會所ニ開業免狀ヲ

第五號雖形ノ如シ與フヘシ

第四節 會所開業ノ後ト雖モ其商業ノ摸樣ヲ檢査シ賣買主ヨリ差入タル證據金ノ合高ヲ見合セ資本金ノ額ヲ増加スヘキ旨ヲ命スルコトアルベシ

第三條 營業報告ノ手續

第一節 會所頭取肝煎ハ左ノ報告ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ地方官ニ於テハ一應檢査ノ上當省ヘ差出スヘシ

第一 會所毎月實際報告

是ハ毎月前一ヶ月賣買約定ニ係リタル金數ノ合高ヲ掲ケ其内現場定期ノ取引ヲ區分シ之ニ平均相場ヲ附記スヘシ但書例第六號ニ照準シテ之ヲ編製シ翌月五日迄ニ該地ヲ差立ツ可シ

第二 總計表報告

是ハ每年前一ヶ年營業ニ係リタル金員出納高ヲ掲ケ其内株金并手数料等ノ總收入ヨリ税金及ヒ配當金其他社員一切ノ遣拂又ハ積立金ノ有無等ヲ記載スヘシ但書例第七號ニ照準

シテ之ヲ編製シ翌年一月中ニ該地ヲ差立ツ可シ

第三 株主仲買人姓名表報告

是ハ株主仲買人ノ姓名族籍住所株數及ヒ身元金高等ヲ記載スヘシ但書例第八號ニ照準シテ之ヲ編製シ定式撰任集會ノ日ヨリ三十日ヲ限リ該地ヲ差立ツ可シ

第四 役員上任報告

是ハ頭取副頭取肝煎支配人上任ノ都度其印鑑ヲ添ユ可シ但書例第九號ニ照準シテ之ヲ編製シ上任ノ日直ニ該地ヲ差立ツヘシ

第四條 諸願屆其他書類用紙ノ事

第一節 會所ヨリ地方廳ヲ經テ當省ヘ差出スヘキ諸般ノ願屆其他ノ書類及ヒ報告書等ハ都テ美濃紙又ハ該會所ノ名號アル界紙ヲ用フ

ヘシ

第二節 創立證書及ヒ會所定款申合規則ノ本書ハ必證券界紙ヲ用フ
ヘシ又株券其他証券類ハ印稅規則ニ從フヘシ

第五條 記錄保存ノ事

第一節 創立證書會所定款申合規則及頭取肝煎撰舉社中集會ニ就テ
ノ報告議事ノ如キ會所ニ關係スル書類ハ一切之ヲ記錄ニ綴屬シ頭
取肝煎之ニ記名調印シ以テ後日ノ證據參觀ノ爲ニ保存シ臨時政府
ノ檢査ヲ受シヘシ

○

第一號 創立願書々例

米商會所創立願

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ニ基キ凡ソ下

條ノ目的ニ據テ協同結社米商會所ヲ創立シ營業致度候ニ付右創立御
許可被成下度依テ別紙創立證書并ニ定款申合規則共相添此段奉願候

何府使
縣管下

何町

何萬軒

何百萬石

何拾萬石

何拾萬石

内譯

高米凡何部

同 何部

何郡何港ヨリ輸出

何國何郡ヨリ輸出

何郡何港ヘ廻送

何郡何港ヘ廻送

法商

- 一 創立場所
- 一 戶數
- 一 該地費消米
- 一 同產出米
- 一 輸出或輸入米

一米商人

何百人

一賣買取引米凡積

何千萬石

右現今ノ實況及將來賣買取引ノ見込共書面之通御座候以上

發起人

年號月日

何某

管轄地方長官宛

第二號 創立証書ノ書例

米商會所創立証書

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ米商會所ヲ創立シテ其商業ヲ經營セント謀リ此証書第五條ニ連名シタル者協議シテ左ノ條々ヲ取極候也

第一條

當會所ノ總員ハ米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ且ツ會所定款申合規則ヲ遵守ス可シ

第二條

當會所ノ名號ハ何々國名郡名又ハ所在ノ地名等米商會所ト稱スヘシ

第三條

當會所營業ノ年限ハ開業ノ日ヨリ滿一箇年タル可シ

第四條

當會所ハ何府使第縣一大區一小区一町一番地ニ取建ツ可シ

第五條

當會所ノ資本金ハ一萬圓ニシテ之ヲ一百株トナシ其内發起人ニテ所持スヘキ株數并ニ其屬籍住所姓名等左ノ表ノ如シ

法商

株數	屬籍	住所	姓名
一 株 此金一 百圓	使 府 縣 華 士 族 平 民	使 府 縣 第 一 大 區 小 區 町 番 地 居住 寄 附	某
合 株 數 一 一 此 金 一 萬 圓			總 計 幾 人

第六條

當會所ノ株主及ヒ仲買人ハ内國人ニ限ル可シ
 此證書ハ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲メ取極メタル證據トシテ各姓名ヲ

自記調印致シ候追テ加入候者ハ順次連署セシメ可申候也
 年號月日
 株主等連名印

内務省

鈐印位置



第三號 會所定款書例

會所定款

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ何
 使
府
縣
第
一
大
區
一
小
區
何
國
一
郡
一
村
一
番
地
ニ
於
テ
之
ヲ
創
立
セ
ン
カ
爲
メ
 協同結社シテ爰ニ株主一同互ニ約定スル規程ノ條々左ノ如シ

第一條

商法

當會所ニ加入シ株主帳ニ記名調印スル人々ハ創立證書及此定款并申合規則ニモ之ヲ承諾セシ證據トシテ必ス記名調印スヘシ

第二條

當會所ハ米商人ノ集會ヲ賣買取引ヲ爲ス所ニシテ其事務ハ此定款并申合規則ニ從ヒ之ヲ會所頭取及肝煎ニ委任ス可シ又頭取肝煎等ハ其約定ヲ監護シ取引ヲ確實ナラシメ其他會所一切ノ責ニ任スヘシ

第三條

當會所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

- 頭取 一人
- 副頭取 幾人
- 肝煎 幾人

商議掛

此内 檢査掛 各幾人

出納掛

- 支配人 幾人
- 書記方 幾人
- 勘定方 幾人
- 簿記方 幾人

右ノ役員ハ各其職務ニ對シ會所ニ於テ定メタル給料ヲ受收スヘシ

第四條

當會所ノ肝煎ハ投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主ノ中ヨリ撰舉シ其人員ハ幾名ト定ムヘシ但此内幾名ハ何地會所創立ノ地ヲ云ニ壹ケ年以上在任シタルモノニ限ルヘシ又其撰舉ノ初集會ノ月日ハ株主一同ノ都合ニ任セ以後ハ毎年定式ノ集會ニ於テ之ヲナスヘシ

商法

右撰舉ニ應シタル肝煎ハ共同僚中ニ於テ投票ヲ以テ頭取一名副頭取
 幾名ヲ撰任スヘシ
 若シ頭取肝煎等ニ適當スヘキ人才アリテ衆望之レニ歸スルモ其者ノ
 所持株不足ナルヲ以テ撰舉シ難キハ其株數ヲ定額ニ充ツル迄ノ金
 高ニ増加セシメ然ル后撰任スルコトアルヘシ
 正副頭取ノ在職ハ一个年又肝煎ハ二ケ年(或ハ三ケ年)間ヲ以テ一期ト
 爲スヘシ但衆望ニ由リテハ重年セシムルコトヲ得ヘシ
 毎年肝煎等撰舉ノ集會ニ於テ其人員ノ半(或ハ三分一)ヲ新任シ其順次
 舊員ト交代セシムヘシ故ニ初年奉職セシ人員ノ半(或ハ三分一)ハ一ケ
 年間又ハ殘員ハ二ケ年(或ハ三ケ年)間在職タルヘシ
 頭取肝煎ノ内不時ノ缺員アルトキハ他ノ頭取肝煎ニテ代人ヲ撰舉シ
 其缺ヲ補フ可シ但シ此代人ハ先役ノ奉職期限ヲ踰ユ可カラズ

支配人以下ノ役員ハ肝煎ノ衆議ニ依リ必ズ社中ノ人員ニ限ラヌ又社
 外ヨリ之ヲ撰任スルコトアルヘシ

第五條

頭取ハ會所一切ノ事務ヲ總括シ他ノ役員ヲ指揮シテ其職任ヲ盡サシ
 ムルノ權アルヘシ又頭取ハ肝煎ノ分掌各掛ヲ議定スルノ權アルヘシ
 頭取ハ株主決議ノ旨趣ニ從ヒ株金納入ノ手續キヲ取極メ之ヲ株主ニ
 通達シ或ハ之ヲ督促シ或ハ期約ヲ違フハ會所ニ於テ其本人へ告知
 ノ上株金高ヲ沒收スルノ權アルヘシ
 頭取ハ米商會所條例及此定款并申合規則ニ從ヒ總テ其適任之職務ヲ
 執行ヒ不正犯則ノ所行ハ自ラ之ヲ爲サハルノミナラス又他人ヲ監督
 スルノ責ニ任ス可シ

法 商

頭取ハ肝煎ノ集會ニ臨ミ常ニ議長トナリ其議事ヲ判決スルノ權アル

ヘシ

副頭取ハ常ニ頭取ノ事務ヲ翼成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヲアルヘシ

肝煎ハ衆議ヲ以テ支配人以下ノ役員ヲ撰任シ其分掌ノ課程及ヒ其權限給料年期等ヲ取極メ又其身元引受人ヲ約定シ或ハ保証金ヲ取置キ又ハ之ヲ褒貶黜陟スル等ノ權アルヘシ

肝煎ハ衆議ヲ以テ社中ノ差違レヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ社中處務上ノ成例ヲ廢立シ又ハ株主ノ衆議ヲ取ラシカ爲メ臨時ニ之ヲ招集スルノ權アルヘシ

肝煎ハ毎月何日ヲ以テ肝煎定式ノ集會日ト極ム可シ又此會議ニ於テ發言ノ權利ハ一人ニ付一説ト定メ衆議ヲ取リテ其議事ヲ決定ス若シ可否ノ數相半ハスルキハ議長ノ判決ニ任ス可シ

右會議ニ當リ出席ノ定員其半ハニ充タサルトキハ其議事ヲ始ム可カラス但急遽ノ事件ハ此限ニアラサル可シ

肝煎ハ頭取又ハ共同僚中ニ於テ職任ニ不相當ノ行ヒアルカ又ハ職務ヲ怠ル者アルトキハ時宜ニ依リ其者ヲ免黜スルヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ臨時委員ヲ命シテ其是非ヲ議シ次回集會ノ節無名投票ノ法ヲ以テ三分二以上ノ説ニ從ヒ其可否ヲ決スヘシ

肝煎ハ株主仲買人ノ所爲ヲ監督シ又其手ニテ設ケタル私則慣法等ヲ廢止スルノ權アル可シ尤此權ヲ施スニハ先ツ集會ノ上之ヲ評議シ次回ノ集會ニ於テ決定シ之ヲ行フヘシ

肝煎ハ社外ノ人ト社中ノ人トノ間ニ起リタル差違レニハ一切關係スルヲナカル可シ尤社中ノ仲買人社外ノ人ノ爲メニ仲買ヲ爲シ退社逃亡死去等ノヲアル場合ニ當リ其賣買本主ト相手タル社中ノ仲買人ト

商法

ノ間ニ差違レアルトキハ此限ニアラサル可シ
 此場合ニ於テ社外ノ賣買本主ヨリ肝煎ノ處決ヲ請求セル時ハ其賣買
 本主ヲ社中ノ仲買人同様ニ見做シ之ヲシテ肝煎ノ處決ヲ守リ決シテ
 違背セサルヘキ旨ノ誓詞ヲ爲サシメ然ル後之カ處決ヲ爲ス可シ
 頭取ノ決議ニ依リ肝煎ノ内幾名ニ商議掛出納掛検査掛ヲ命ス商議掛
 ハ常ニ會所營業事務上ノ得失利害ヲ商量討論シ及ヒ凡百ノ施設上ニ
 付キ其順序ヲ立テ或ハ其議案ヲ草シ之ヲ頭取ニ申陳シ又ハ社中ノ衆
 議ヲ取ラシカ爲メ臨時集會ヲ催シ併セテ社中一般ノ疑問ニ答辨シ及
 ヒ違約人處分等ノ事ニ任スヘシ
 出納掛ハ會所ニ關スル金穀出納ノ事ヲ擔當シ資本金并ニ身元金証據
 金米代金及ヒ廢穀等ヲ管守シ併テ銀行引合等ノ事ニ任ス可シ
 検査掛ハ會所ノ監察主役ニシテ常ニ金穀ノ出納ヲ監シ諸帳簿計算ノ

正否等ヲ點檢シ併セテ營業ノ實況ヲ視察シ現務ノ得失ヲ指摘シテ其
 顛末ヲ記錄シ之ヲ頭取肝煎及株主一同ニ報告スル等ノ事ニ任スヘシ
 検査掛タル者職務ヲ怠リ又ハ偏頗ノ所業其他犯則ノ所業アル時ハ其
 處分他ノ掛リノ者ヨリ重クスヘシ

第六條

株主定式集會ハ毎年何月幾日幾度ニテモ其月日午前第何時ヨリ第何
 時マテ當會所ニ於テ之ヲ執行スヘシ其他總株數五分一以上ニ當ル株
 主ノ請求又ハ肝煎ノ協議ニ依リテハ臨時集會ヲ開クコトアル可シ右臨
 時集會ヲ開クニ當テハ其場所并ニ期日時限及ヒ議事ノ大意ヲ記シテ
 少クトモ十日以前ニ頭取肝煎ヨリ總株主ニ報知スヘシ
 總株數五分一以上ニ當ル株主ノ協議ニテ臨時集會ヲ開カント欲スル
 事ハ其議事ノ大意ヲ頭取ニ陳ヘ招集ノ取扱ヲ請求ス可シ若シ頭取ニ

於テ十五日間以上其手續ヲ怠ルトキハ請求人自ラ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

株主集會ノ議長ハ頭取或ハ株主中ヨリ臨時之ヲ撰任ス可シ

株主集會ニ當リ出頭ノ總員其半ニ充タサルキハ會議ヲ延引シ更ニ他日ヲ刻ス可シ

集議ニ臨ミ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フニ非サレハ別ニ發言可否ノ多少ヲ算スルニ及ハス議長其議ヲ斷決シテ之ヲ會所ノ議定録ニ記入シ以テ他日其事ノ證據ト爲スヘシ若シ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フキハ議長ノ指揮ニ從テ投票法ヲ行フヘシ但此投票ノ多數ヲ以テ集議ノ決定ト視做スヘシ

集議ニ當リ可否ノ發言相半ハスルキハ議長之ヲ判決スルノ權アル可シ定式又ハ臨時集會ニ於テ定款并ニ申合規則ヲ加除改正スル等ハ勿

論其他會所一般ニ關係セシ條件ヲ決議シタルキハ之ヲ明細ニ記シ必内務省ヘ申告スヘシ

第七條

株主ハ集議ニ臨ミ一株ニ付每事一説ヲ發スルノ權アリトス然レトモ各其所持ナル株數十株以上百株迄ハ五株毎ニ一説宛百株以上八十株毎ニ一説宛ヲ増加ス可シ但會所ノ役員ハ發言スルヲ得ヘカラス株主ハ其株式ヲ質入抵當トナシタル時間ハ集議ニ臨ミ發言スルヲ得可カラス

株主ハ集議ニ當リ代人ヲ出シ發言セシムルヲ得ヘシ但代人タル者モ自カラ其權ヲ有スル者ニ限ル可シ

第八條

株券破損或ハ紛失セシキハ其株主ノ請求ニ應シ之ヲ書換ヘ付與スヘ

シ但破損ナレハ其舊券ト引換ヘ紛失ナレハ其次第ヲ明記シ且相違ナ
キ旨保証人連印ノ証書ヲ差出サシムヘシ

第九條

當會所ニ於テ株主ノ集金ヲ要スルキハ其度毎ニ必頭取ノ名ヲ以テ少
シトモ十五日以前ニ其旨ヲ通達ス可シ株主タルモノ若集金ノ期日ニ
至リ其納金ヲ怠ルキハ更ニ頭取ヨリ報告書ヲ達シ其集金并ニ期限後
ノ利子共怠慢ヨリ生スル雜費ヲモ納メシムヘシ但此報告書ニハ再ヒ
其期日ヲ定メ若此期ヲ課ルキハ其株式ヲ沒收スヘキ旨ヲ記載ス可シ
右ノ報告書ヲ達スルニ尙再期ヲ怠リ納金セサル者ハ頭取ノ意見ヲ以
テ其株式ヲ沒收スルヲ得ヘシ
株主其所持ノ株式ヲ沒收セラル、時右沒收以前ニ納ムヘキ集金ハ沒
收後ト雖モ尙其責ヲ免ルヘカラス

第十條

當會所ノ資本金高ヲ増減スルハ株主ノ集會ニ於テ之ヲ決定スヘシ但
右増減ノ許可ヲ得テ之ヲ施行スルノ方法ハ其時ニ臨ミ各株主ノ衆議
ニ任スヘシ

第十一條

當會所株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入レ或ハ借金ノ抵當
ト爲サント欲スルトハ豫メ其趣ヲ肝煎ニ申出テ其承諾ヲ受ケテ後之
ヲ行フヘシ
株主其所持ノ株式ヲ賣買授受スルニ當リテハ雙方連印ノ証書ヲ肝煎
ニ差出スヘシ右証書ヲ差出シタル上ハ肝煎ニ於テ會所株主帳ノ姓名
ヲ書改ムヘシ

商法

毎年ノ定式集會前半ケ月間株式ノ賣買授受ヲ停止シ株式帳ノ書改メ

ヲ爲サ、ルヘシ

五百十六

株主ノ内死去或ハ分散ニ依リ其株式ヲ讓受シ可キ人々ニハ肝煎ノ要用トスル證據ヲ差出サシメ然ル後之ヲ株主トシテ株主帳ヲ書改ムヘシ

右ノ手續ヲ爲サスシテ賣買授受シタル株券ハ會所ニ於テ其効ナキ者ト看做スヘシ

第十二條

當會所ニ於テ自ラ米賣買取引ヲ爲シ又ハ他人ノ依頼ヲ受ケテ仲買トナリ之ニ從事スル者ヲ以テ總テ仲買人ト稱スヘシ但他人ノ依頼ヲ受ケテ仲買ヲナシタル片ハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スヘシ

又當會所ノ株主タルモノハ會所ノ役員タテサル時間ハ何時ニテモ肝

煎ノ承認ヲ經テ仲買人トナルコトヲ得ヘシ

總テ仲買人タルコトヲ欲スルモノハ毎年何月何日ヨリ何月何日迄ニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出スヘシ此書面ニハ姓名住所年齢商業等ヲ記シテ之ニ調印シ且二名以上証人ノ連印ヲ要スヘシ尤株主タル者ハ別段証人ヲ要スルニ及バザルベシ

此仲買人タル者ハ營業上ニ於テ米商會所條例此定款申合規則ヲ遵守ス可キ旨ノ約定ヲ確實ニシ及ヒ違約ノ償辨ニ供用スヘキ爲メ身本證據金トシテ金何百圓ヲ當會所ニ差出シ置クヘシ但此身元金ハ會所ニ於テ他ニ使用スル等ノコト無キカ故ニ利子等ヲ拂渡スコトナカルヘシ當會所肝煎ノ承認ヲ經且身元金ヲ差出シ會所ノ仲買人ト成リタル上ハ會所ニ於テハ之ヲ社中ノ人ト視做スヘシ
仲買人入社中ノ期限ハ一ケ年ト定メ毎年何月幾日幾度ニテモ其月日ヲ定メ記載スヘシ

商法

五百十七

ヲ以テ撰任ノ期トナスヘシ但期限内自己ノ都合ニ依リ退社セント欲スルモハ其旨趣ヲ書面ニテ肝煎ニ申出ツヘシ肝煎ハ右ノ書面ヲ少クモ十日間以上取引場ニ帳出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認タル上ハ其者ノ退社ヲ許シ身元金ヲ返付シ証人ノ責任ヲ解クヘシ

仲買人若會所又ハ社中ノ人ニ對シ不正不實ノ所業アルヲ以テ其者ヲ除名スヘキ場合ニ至テハ肝煎ノ衆議ニ依リ其証人ヲシテ三十圓以下ノ過怠金ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第十三條

仲買人タル者其名代トシテ手代ヲ會所ニ出サント欲スルモハ書面ニテ其者ノ姓名住所并ニ丁年ナルコト及委任ノ權限等ヲ詳細書面ニ認メ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得テ後會所ニ出スコトヲ得ヘシ但此書面ハ少ク

モ十日間以上取引場ニ張出シ置キ異存ノモノナキコトヲ認メタル上ニアラサレハ手代ヲ會所ニ出スコトヲ許サ、ルヘシ

手代ノ姓名ハ其主人ノ姓名ト共ニ會所ニ揭示シ其主人ヨリ別ニ報告ナキ時間ハ其手代ノ取結タル約定ハ都テ主人ノ引受タルヘシ

主人若其代人委任ノ權ヲ解クモハ速ニ之ヲ肝煎ニ報知スヘシ然ル上ハ肝煎ニ於テ其趣ヲ會所ニ揭示シ其手代ノ姓名ヲ取消スヘシ

手代若違約ヲ爲スモ其主人ニ於テ違約ノ償辨ヲナシタルモハ其手代ハ會所ニ於テ取引ヲ爲スヲ禁シ主人ハ尙仲買人タルヲ得ルト雖モ若シ主人違約人トナリ社中ヲ除名セラル、モハ其手代タルモノモ會所ノ出入ヲ禁スルハ勿論タルヘシ

第十四條

當會所營業ノ總勘定ハ毎年一月七月兩度ト定ム可シ

當會所營業ノ總勘定ヲ爲シ税金并社費ヲ引去リ純益金一ケ年一割以上ノ利子ニ當ルキハ其以上ノ幾分ヲ以テ準備金トナシ積置クヘシ但準備金ハ會所非常ノ災害ニテ損失ヲ受クルカ或ハ其他ノ事故ニ依リ株主ノ集議ニ於テ適當トスルニ非サレハ之ヲ使用スヘカラズ右準備金ハ時宜ニ依リ肝煎ノ決議ヲ以テ公價証書又ハ不動産等ニ替置クコトヲ得ヘシ

利益金ノ内準備金ヲ引去タル殘高ハ之ヲ株高ニ配當シテ各株主ニ割渡スヘシ

當會所ニ損失アリテ資本金不足スルキハ頭取肝煎ヨリ其事情計算ヲ株主一同ニ公告シ其後ニ生スル處ノ利益ハ其資本高ノ不足ヲ補ヒ得ル迄ノ間配當ヲ差止ム可シ

第十五條

當會所ノ株主及役員等社中ノ諸規則ニ悖戾シ又ハ不信ノ所業ヲナス可カラズ若シ之ニ違フ者アルキハ株主或ハ肝煎ノ集議ヲ以テ其輕重ニ從ヒ相當ノ過怠金ヲ付ス可シ又其事柄ニ依リテハ公裁ヲ仰クコトアルヘシ

第十六條

此定款ノ箇條ハ株主ノ議定ニ依リテハ何時ニテモ改正加除スルヲ得可シト雖モ必官ノ許可ヲ得テ施行ス可シ

右ノ條々ヲ取極メタル證據トシテ各姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號月日

株主姓名印

內務省

鈐印位置



商法

第四號 申合規則書例

何々米商會所申合規則

此米商會所ハ明治九年八月太政官第五號公布條例ノ旨趣ヲ遵奉シ
賣買上尙緊要ノ條件ニ於テ總員確守ス可キ規程ヲ議定シタルモノ左
ノ如シ

第一條

當會所ノ賣買ハ何地米何石建ノ事

但シ取組ハ壹石ノ直段ヲ相唱フベシ

第二條

約定ノ期限ハ三個月ヲ越ス可カラサル事

但シ取引ノ期月ハ何々月又ハ毎月何々日ト定ムヘシ

第三條

賣買米ハ本場限リ帳入トシテ本場後ノ賣買ハ翌日ノ本場ニテ帳入ト
定ムヘキ事

但シ定期賣買ノ帳入米ハ本日本場賣買掲札ノ平均直段ヲ以テ定價

トナシ又現場取引勘定ハ相對取組直段ヲ以テスヘシ

第四條

約定証據金ハ之ヲ四様ニ分チ時價ノ高低ニ依リ増減スヘキモノト雖
但當分ノ内左ノ通相定メ其出納時間ハ毎日午前何時限リタルベキ事

第一 本証據金建米何石ニ付何圓

是ハ本日賣買高滿何千石マテハ其割合ニ從ヒ翌日ノ出納時限迄

ニ入金スヘキ事

第二 半証據金同上何圓

是ハ本場并ニ二番商ヒニテ何千石以上ノ賣買ニ及フモノ即刻記
載ノ割合金ヲ差入レ残り金高ハ翌日定刻ニ入金スヘキ事

第三 追証據金同上何圖

是ハ賣買米約定ノ定價ヨリ壹石ニ付何拾錢又ハ前件本証據金ノ
定額ヨリ何割ノ高低アルキハ幾度ニテモ追証據金トシテ翌日定
刻迄ニ差入レ且又右以外ノ高低何錢何割ニ至ルキハ即日入金ス
ヘキ事

第四 増証據金同上何圖

是ハ約定中何日間休業ノ場合及ヒ取引ノ期月何日前ニ至リテ雙
方之ヲ入金スヘシ但本日ヨリノ賣買ハ右ニ準シ増証據金ヲ加ヘ
テ差入ヘキ事

第五條

諸証據金ノ預リ証ハ各銘ノ通帳又ハ切手ヲ用フルト定メ印稅規則ニ
遵ヒ印紙貼附致スヘキ事

但シ通帳及ヒ切手ニ記載シタル金穀ハ一切他ニ使用スルヲ許サ、
ルヘシ

第六條

約定期限中其賣買米ヲ買戻シ又ハ賣渡シヲ要スルモノハ雙方前談ノ
上之ヲ肝煎ニ申立賣買受授ノ手續ヲ經テ其決算ヲ乞フヘキ事

但シ非常ノ亂高下或ハ不穩當ノ所業ト見認ルキハ肝煎ニ於テ其申
立ヲ採用セサルヲモアルベシ

第七條

取引期日ニ至リテハ午後第何時限リ賣主ハ銘柄藏所付又買主ハ代價
ノ全部又ハ何部ヲ會所ニ差出スヘキ事

商 法

但シ本條部金ハ本場立テ留リヨリ前ニ繰戻シ何ケ日ノ本場直段ヲ合セ之ヲ平均シテ其代價ノ計算ヲ立ツヘシ

第八條

受渡米ハ買主並ニ掛リ役員立合ノ上之ヲ検査シテ故障無キキハ立合封印ヲ爲シ其藏出証書ヲ買方ヘ又其何部代金ヲ賣方ニ相渡スヘキ事

但受渡中非常天災ノ損毛又藏敷等ハ兩持トナシ又何日以外ハ買方ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第九條

買方二名以上ニシテ賣渡米各種ナルキハ其銘柄ヲ圖引ニシテ受取ルヘシ若又大石數ナレハ圖引ヲ以テ藏出ノ順序ヲ定メ置キ雨天ノ外日々早朝ヨリ受渡シヲ爲スヘキ事

但シ受渡ノ節ハ會所附屬ノ小揚ヲ立合セ枿廻シ引枿等都テ市中ノ通例ニ依テ取扱ハシムヘシ

第十條

代米ノ受渡ハ都テ會所ニ於テ定メタル格附ニ從フヘシ又受渡ノ藏所ハ會所附屬ノ外某地一圓其他何橋ヨリ何川迄枝川ハ何河岸通リ他町以内ノ藏々ヲ相用フヘキ事

第十一條

受渡米検査ノ場合ニ於テ若シ不足アルハ之ヲ補ハシメタル上米何石ニ付金何圓ノ割合ヲ以テ不足セシ俵數ノ過怠金ヲ出サシメ買方ニ相渡スヘキ事

第十二條

不熟風災腐化等ノ惡米其他渡方ニナラサル程ノ米症ナル時ノ代米ハ

法 商

都テ何日限り差出ス可シ若シ之ヲ怠ル時ハ何石ニ付何圓宛ノ過怠金ヲ差出サシメ之ヲ買方へ渡スヘキ事

第十三條

銘柄違並ニ藏所違ヒハ米何石ニ付金何圓宛ノ過怠金ヲ買方ニ渡サシムヘキ事

第十四條

買買主ニ於テ若シ定規ノ証據金ヲ怠リ又ハ銘柄藏附及ヒ何部金等ヲ定刻ニ差出サスシテ違約人トナリタル時賣方ノ違約ナレハ買方ニ於テ其石高ヲ市場ニ買求メ又買方ノ違約ナレハ賣方ニ於テ之ヲ市場ニ賣拂ヒ其不足金並ニソレカ爲メ蒙リタル損失ヲ合セ其者ノ証據金身元金ヲ以テ之ヲ償ハシメ尙相手方ヲ満足セシムル能ハサル時ハ公裁ヲ仰シヘキ事

第十五條

前條ノ處分ニ及フモノハ直チニ之ヲ除名シ若其身元金アルキハ之ヲ沒収スヘキ事

第十六條

會所ノ手数料ハ賣買米何石ニ付當分左ノ通相定メ又仲買口錢ハ其額人トノ示談ニ任スヘシト雖モ凡手数料何分ノ割ニ踰ニ可カラサル事

定期取引手数料何拾錢

現場取引手数料何錢

第十七條

毎日營業ノ時間ハ午前第何時ヨリ何時迄ヲ本場立會ト定メ午後第何時ヨリ何時迄ニ番商ヒヲ執行致スヘキ事

但シ金方出納ノ爲メ延縮スルハ此限ニアラサル可シ

法 商

第十八條

御國祭其他毎月何ノ日休業タルヘキ事

但シ休業日ノ出納ハ次ノ立會定刻何時限タルヘシ

第十九條

此申合規則ニ於テ實際上若シ不都合有之節ハ肝煎ノ衆議ヲ以テ之ヲ
補除改正シ其郡度官ノ許可ヲ得テ施行スヘキ事

右取極メタル申合規則ハ會所營業上何レモ確守スヘキ證據トシ
テ株主并ニ仲買一同記名蓋印スヘキモノナリ

年號月日

株主姓名印
仲買姓名印

第五號 開業免狀ノ雛形

開業免狀

何々米商會所

右差出シタル創立證書ニ據リ此會所ハ明治何年何月太政官第何號
布告米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉履行スヘキコト分明ナルニ付今此開
業免狀ヲ下付シ自今其業ヲ營ムコトヲ許可スルモノ也

年號月日

內務卿

切押

「朱

○

第六號 實際報告ノ書例

明治一一年一月中實際報告

何々米商會所

商法

一日	二日	三日	四日	五日	以下至	合計
現埠取 引米 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	朱 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	朱 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
平均壹 石代 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
本月限 〇〇〇〇〇	朱 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
平均壹 石代 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
二ヶ月限 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	朱 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	朱 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
平均壹 石代 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
三ヶ月限 〇〇〇〇〇	朱 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	朱 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
平均壹 石代 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
總計米 〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇

右違算無之候事

年號月日

頭取姓名印

檢査掛姓名印

支配人姓名印

○

第七號 計算表書例

明治十一年前
後半季計算表

何々米商會所

法商

入額	出額
手数料 若干	税金 若干
利息金 々々	役員俸金 々々
過怠金 々々	不時賞與 々々
没收金 々々	社費 々々

物品賣拂代	々	々	々	々
建築修繕或ハ地料	々	何	何	々
株金ヨリ繰替高	々	々	繰替金拂入高	々
何	々	々	々	々
總計	々	々	々	々

差引

純益金若干

内 金若干 株主へ配當スベキ分 但一株ニ付 金若干 積立準備へ組入ル可キ分 金何圓何錢

別途計算

資本株金若干

積立準備金若干

金若干 現金若干 公債証書、	地方廳或ハ銀行へ預ケ高	金若干 現金若干 公債証書、	銀行其他へ預ケ高
金 々 々	建築費其他繰替高	金 々 々	公債証書或ハ不動産
金々々々 々々	櫃中現在高	金 々 々	櫃中現在高
身元金若干		商會所々有物	
金 若干	公債証書	地 所	若 干 坪
金 々 々	現 金	建 物	々 々 々

法 商

右之通違算無之候事

年號月日

頭取姓名印

檢査掛姓名印

出納掛々々

第八號 株主仲買人姓名表報告ノ書例

何々米商會所

株數	屬	籍	住	所	姓	名
一 株 此金一 百圓	一 府使 縣 華士 族平 民		一 府使 縣 第 大區 小區 村	一 町 番地 寄居 住	何	誰
合株數 此金一 萬圓					總計 株主	幾人
身元金一 百圓						

合金何千圓					總計 仲買	幾人
-------	--	--	--	--	----------	----

右之通相違無之候事

年號月日

頭取姓名印
肝煎姓名印

第九號 役員上任報告ノ書例

何々米商會所役員印鑑御届
 年號一
年一
月何ノ
誰儀ハ
當商會
所ノ
頭取副
頭取肝
煎又ハ
支配人
ニ撰ハ
レ共印
鑑ハ別
紙ノ通
ニ候也

年號月日

何々米商會所

頭取姓名印

〔別紙〕

用紙厚紙堅五寸幅一寸五分

何々米商會所何役

籍

何々誰

年號何年何ヶ月

印鑑



宿所

○七年十二月廿七日御布告第三百三十八號

從來各地方ニ於テ米油限月賣買差許置候處今般右賣買一切差止候條
自今會社ヲ結ヒ米穀賣買相場取引致シ度者ハ本年十月第七號布告條

式取引條例ノ方法ニ倣ヒ會社規則取調其管轄廳ヲ經テ大藏省へ願出
許可ヲ受ヘシ此旨布告候事

但目今限月賣買取組居候分ハ右限月内ハ取引不苦候事

○八年五月二十日御布告第八十八號

明治七年^{十二月}第三百三十八號ヲ以テ米油限月賣買一切差止米穀賣買相
場取引致度者ハ株式取引條例ノ方法ニ倣ヒ可願出旨布告候處右米穀
相場會社稅額ノ儀ハ手數料其他現收スル總金高十分ノ四ト相定候條
此旨布告候事

○九年九月十一日內務省布達甲第三十四號

米油限月賣買被禁候以後取引取纏ノ爲メ延期ノ儀追々開屆置候向モ
有之処本年太政官第五號公布ノ趣モ有之候ニ付テハ最前開屆候期
限内ノ外自今一切延期不相成候尤更ニ營業致度向ハ右公布及ヒ當省

法商

甲第二十九號布達ニ照準可致此旨布達候事

圖九年九月十一日內務省達乙第百號

本年八月太政官第百五號公布米商會所條例ニ照準シ會所創立候ニ付テハ條例第三條第三節及當省本年甲第二拾九號布達成規第二條第一節二節ノ手續ヲ以テ資本金總高ノ内三分二ニ當ル公債証書又ハ現金ヲ地方應或ハ國立銀行ニ預ケ候管ニ付現品差出候ハ、其種類相當ノ請取証書ヲ與ヘ地方廳ハ長官并其掛ノ者銀行ハ頭取支配人勘定方等立會封印シ容易ニ之ヲ轉動使用スルコトヲ得サラシムルノ手續ヲ爲シ置シ可シ且右預リ現金ハ別ニ利子等ヲ拂遣スニ不及候尤別段ノ約定ニ據リ預リタル時ハ其方法約定ノ旨趣ヲ詳記シ當省へ可届出候此旨相達候事

但銀行へハ其所在管轄廳ニ於テ可相達事

圖八年六月十二日大藏省布達甲第十九號

米穀相場會社ノ儀昨七年布告第百三十八號及ヒ本年當省布達甲第六十號ヲ以テ公布候処右會社設立ノ定數其他並資本金高共豫メ權度ノ標的無之實テハ際不都合可有之ニ付左ノ通相定候條此旨布達候事

一米穀相場會社設立箇所

二箇所

東京

一箇所ツ、

自餘使府縣

但會社支店設立ノ儀ハ使府縣トモ一箇所ヨリ多カル可カラヌ尤モ右出願スル會社ハ本社設立ノ手續ニ準シ當省ノ許可ヲ受クヘシ

商法

一前條ノ如ク立社定數ヲ限ルニ付テハ一管内ニテ數社出願ノモノアラハ左ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第一 從來官許ヲ得タル商社(又ハ會所)ニシテ創立準則發施以前

ニ於テ其管轄廳ヘ先願スルモノヲ主トシ其條例準則等ニ適當スルト思考スルニ於テハ官許ヲ與フヘシ

第二 從來官許ヲ得タル商社(又ハ會所)タリト雖モ條例準則等ニ

適當スル能ハサルキハ他ノ結社出願スルモノ、内先願ニシテ條例準則等ニ適當スルト思考スルモノヘ官許ヲ與フヘシ

第三 從來官許ヲ得タル商社(又ハ會所)ニシテ準則發施以前ニ出

願スルト雖モ準則發施後五十日以内ニ於テ再願セスシテ右期限以後出願スルモノハ之ヲ新願ノ部ニ加算シ此内ニテ條例準則等ニ適當スルト思考スル先願ノモノヘ官許ヲ與フヘシ

一 資本金高三萬圓ヨリ少カル可カラズ

○ 九年二月二十八日大藏省番外達

- | | | | | | |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| 東京府 | 京都府 | 大坂府 | 兵庫縣 | 愛知縣 | 名東縣 |
| 山口縣 | 廣島縣 | 三重縣 | 滋賀縣 | 新潟縣 | 石川縣 |
| 静岡縣 | 堺縣 | 愛媛縣 | 佐賀縣 | 濱松縣 | 新川縣 |
| 鶴岡縣 | 和歌山縣 | 岡山縣 | 岐阜縣 | 飾磨縣 | 福岡縣 |
| 白川縣 | 大分縣 | 三潞縣 | | | |

昨八年二月第二十三號ヲ以被發候雜稅目之内三十九項ニアル米會所稅之儀ハ一昨七年第百三十八號以下追々公布公達之趣モ有之追テ許可ヲ得タル上ハ昨八年五月第八十八號公布ニ照準國稅收入可致儀之所従前米油限月賣買致シ來リ候モノ共間無稅ニ差置候テハ自然取締筋ニモ相關シ差支ヲ生スヘキニ付國稅收入迄ノ間ハ府縣稅トシ徵收之

商 法

積ヲ以テ稅額並賦課ノ方法取調至急當省ヘ可伺出候此旨相違候事

但本文稅金壹ケ年收徵ノ金額取調凡ソニモ可申出事

圖十年十二月廿八日內務省布達甲第四十三號

明治七年(十月)第七號ヲ以テ公布相成候株式取引所及ヒ九年(八月)第百五號公布米商會所ノ儀今般更ニ大藏省主管ニ被屬候ニ付テハ從前營業ノ者并今後營業致度者共右營業ニ屬スル願伺屈等ハ總テ從前內務省ヘ差出シタル手續ヲ以テ自今大藏省ヘ可差出此旨布達候事

圖十一年一月十七日大藏省達乙第二號

府 縣

米商會所并同仲買人共ニ於テ支社分店又ハ出張所等取設ケ其業務取扱候者モ有之哉ノ趣右ハ決シテ不相成筈ニ候條若シ右様ノ向有之候ハ、差止可申候此旨相違候事

〔第四十九〕會社設立規則

○六年十一月廿七日大藏省布達百六十八號

府 縣

於各地方管轄交渉之人民申合諸會社設立免許願出ノ儀是迄區々ニ有之候處自今左之通相定候條此旨布達候事

- 一 發起人又ハ頭取ノ内筆頭之者其本管ノ廳ヘ添翰ヲ請ヒ其本社據置
- ノ官廳ヘ願出其官廳ヨリ當省ヘ可伺出候事
- 一 會社許可濟ノ上ハ發起人又者頭取以上各其本管ノ官廳ヘ其旨可届

出候事

- 一 各地方ヘ分社取設候節ハ其本社願濟ノ證ヲ以其地方廳ヘ可願出候

事

○六年十二月五日御布告第四百四號

商 書籍出版會社取建其他營業ニ屬スル諸願伺ハ總テ本人管轄廳ヘ願出

候處各地寄留ノ人民時々本管廳へ願出候テハ營業ニ差支候儀モ可有之ニ付自今寄留地戸長ノ與印ヲ以其地方廳へ願出候節ハ事實篤ト取糺不都合ノ儀無之候得ハ管下人民同様處分可致尤處分ノ始末寄留地方廳ヨリ其本管廳へ通達可致此旨布告候事

但相續婚姻生死其他戸籍上ニ關スル儀ハ從前之通ニ候事

○四年十二月十八日御達

華士族卒在官ノ外自今農工商ノ職業相營候儀被差許候事

但職業相營候者ハ其業體人名等管轄府縣ニ於テ取調大藏省へ可届出事

○八年四月廿三日御達第六十五號

院省使廳府縣

官吏商賈ノ營業不相成ハ勿論ニ候處其區分判然ヲラサルニ付自今左ノ通被定候條此旨相達候事

但從前ノ指令之レニ抵觸スルモノハ廢止ト可心得事

第一條 凡ソ官吏タルモノ並ニ其家族トモ他ノ物品ヲ買入レ之ヲ餘

人ニ賣以テ利ヲ獲ルモノ或ハ他ノ生産ヲ買入レ製作ヲ加ヘ之ヲ販

賣シテ利ヲ獲ル等ノ業一切禁止ノ事

但區戸長郵便取扱人學區取締役及等外吏ノ分ハ其限ニアラス

第二條 官吏ノ家族自己ノ財ヲ以テ商賈ノ業ヲ營マント欲スル者ハ

分籍別居ノ上相營ムヘキ事

第三條 左ノ數件ハ商賈ノ業ニアラサルニ付官吏タル者ト雖モ制禁

ニアラサル事

但商賈同様ノ店ヲ開クハ不相成候事

一 鐵山借區營業及ヒ田地ヲ所有シ其利ヲ獲ル事(此一項本年第八十七號改正ノ分)

一 田地家屋ヲ貸シテ代地宿賃ヲ獲ル事

法 商

- 一金銀ヲ貸シテ利息ヲ獲ル事
- 一所有地ヨリ生スル物産ニ製作ヲ加ヘ賣拂事

〔第五十〕羊毛買上規則

○九年九月廿七日内務省布達甲第三十六號

綿羊豢養致シ候者剪毛賣捌方差支廢業致候者モ有之哉ニ相聞候間當分ノ内勸業寮於テ剪毛可買上候條望ノ者ハ左ノ規則ニ照準同寮へ可申出此旨布達候事

一綿羊剪毛買上方願ノ者ハ剪毛ニ汚穢無之様冷水ニテ能ク洗ヒ乾燥ノ上實斤數可申立事

一願ノ者ハ兼テ豢養ノ頭數ヲ記シ剪毛ト共ニ管轄廳へ差出可申於管轄廳ハ斤數等篤ト検査ノ上相違無之候ハ、代金ハ該廳豫備金ノ内

ヨリ繰換下渡豢養人姓名宿所豢養ノ頭數并剪毛ノ斤數調書及代金請取證相添現品東京四谷内藤新宿勸業寮出張所へ可送付該金ハ追テ同寮ヨリ償却候事

但運賃ノ儀モ證書相添本文同様可相心得事

一豢養人ヨリ直ニ前同所へ送付候節ハ當人代人持參候共又ハ郵便候共都合タルヘシ最郵送候節ハ代金可請取證書ヲ添テ可送付事

但郵送スル者ハ姓名宿所豢養ノ頭數剪毛ノ斤數共詳細認メ送ルヘキ事

一前條検査ノ際油膩ノ爲ニ廢敗致シ居候歟或ハ汚穢洗滌方不行届ノ分ハ買上不相成候條篤ク注意可致事

商 法
一代價ハ當分ノ間壹斤即チ百ニ付メリ「羊毛」ハ金三拾錢「レスルト羊毛」サウスマヲ「羊毛」ニツクル「羊毛」ハ共ニ金貳拾五錢支那羊毛

羊毛買上規則

ハ金貳拾錢ヲ以テ買上候事

一羊毛買上ノ儀ハ各自衆發致シ候分ニ限リ候條他人ノ羊毛ヲ買取賣上ケ候儀ハ一切不相成候事

〔第五十一〕牛馬賣買免許鑑札渡方規則

○五年十一月四日御達第三百三十號

諸府 省縣

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

別紙

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨

ヒ所置可致事

壬申十月

大藏省

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事

但壹鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七疋以内二枚ヲ所持スル者ハ十四疋ニ限ルヘシ其餘准之可申事

第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事本條

七年四月二十日第四十五號御布告ヲ以テ改正ノ分

第三條 免許鑑札萬一燒失流盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

法 商 第四條 免許鑑札壹枚ニ付一ヶ年稅金一圓上納可致事

牛馬賣買免許鑑札渡方規則

但有税金ハ毎年二月八月兩度ニ半額宛各管廳へ取立租稅察へ上納可致尤新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事但書八年七月七日第百十五號御布告ヲ以テ改正ノ分ヲ載ス

第五條 免許鑑札燒印并押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共へ相渡可申事

但鑑札相渡次第稼人共國郡町村及ヒ名面等詳細取調有鑑札印鑑相添當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事

但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代并科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付候諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

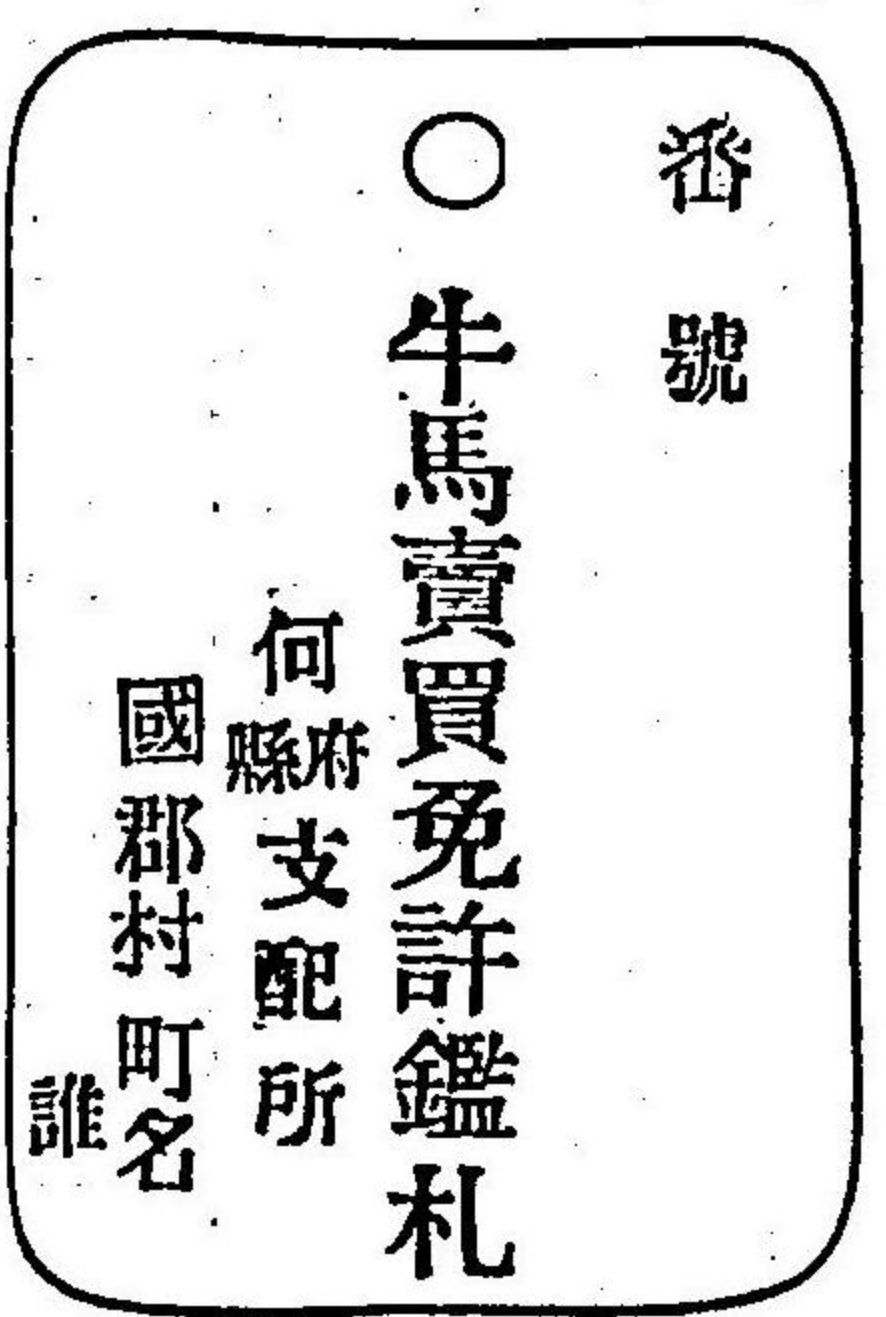
但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡シ候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事本條七年十二月三日第百三十一號御

布告ヲ以テ追加ノ分ヲ載ス

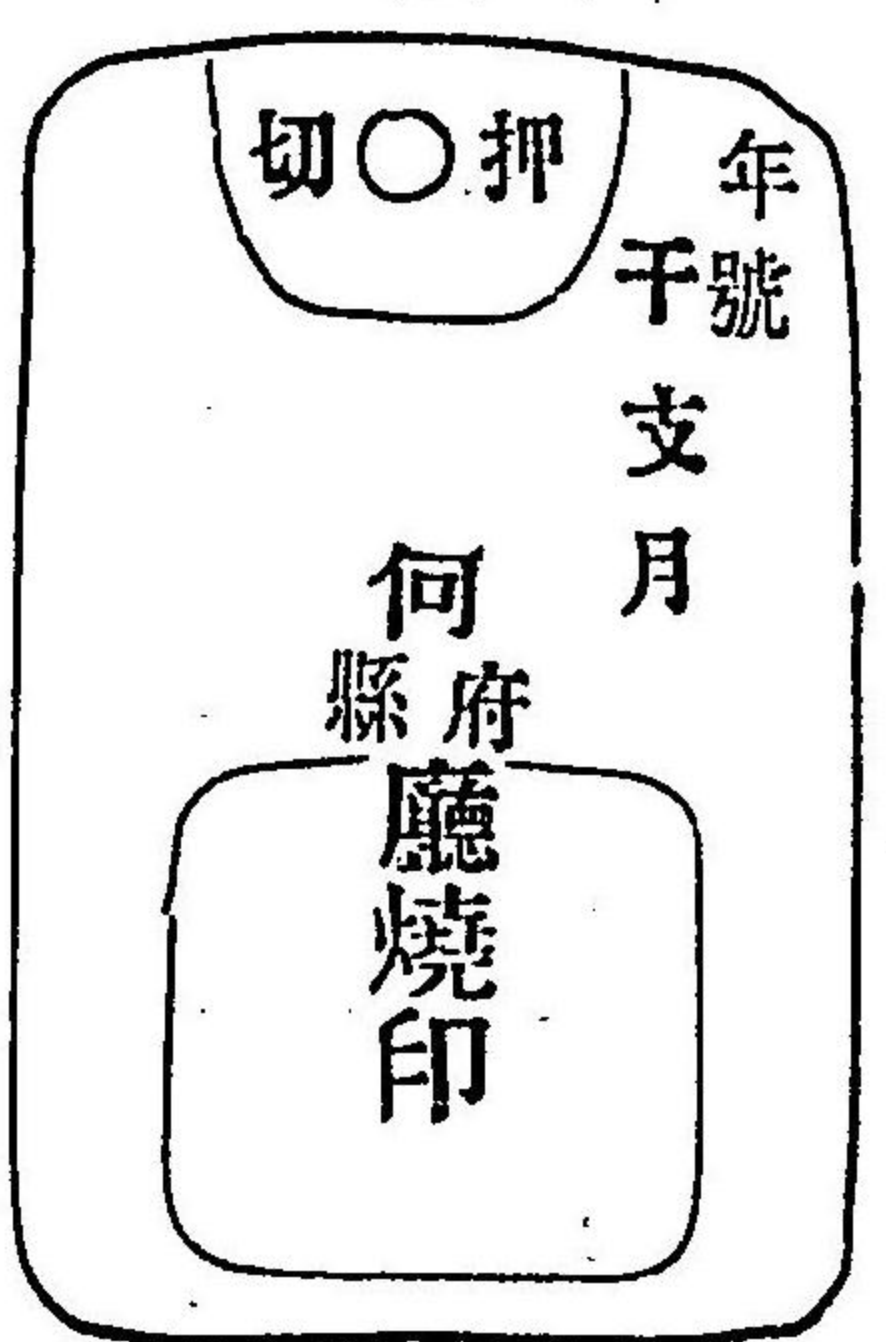
右之通規則相定候事

法 商

鑑札雛形
堅三寸
横二寸



裏面



第七年六月三十日大藏省達第六十八號

牛馬賣買免許鑑札稅ハ二月綾油稅ハ四月收入候節現在稼人仕譯別紙
雛形ニ倣ヒ牛馬ハ三月三十一日綾油ハ五月三十一日限差出爾後新規
稼休廢業等ハ其時々可届出尤本年ノ儀ハ既ニ期限後ニ付往復日數ヲ
除キ三十日限取調可差出此旨相達候事

明治何年
牛馬賣買稼人仕譯

一牛馬賣買免許鑑札何枚 稼人何人
右ハ常明治何年二月現在稼人并鑑札
渡高書面之通候也
明治何年三月 官苗字名印
租稅頭何之誰殿

(綾油稼人仕譯帳雛形略之)

第八年十一月八日大藏省達乙第四百十三號

牛馬賣買免許鑑札稅烟草稅度量衡來ル明治九年六月迄收入候分ハ會
計年度八年分へ編入致シ右以後其年七月ヨリ翌年六月迄可收入分ヲ
其年分へ編入候儀ト可相心得事

但牛馬賣買免許鑑札稅帳本年十二月迄ノ分ハ九年二月十日限リ差
立同年一月ヨリ六月迄ノ分ハ別帳ニ致シ七月三十一日限差立右以
後ハ其年七月ヨリ翌年六月迄一ケ年分七月三十一日限差立可申且
現在稼人仕譯帳ハ向後差立不及事

第八年十一月十日御布告第百六十六號

明治七年六月第六十七號ヲ以布告候酒造綾油商船並生絲牛馬賣買鑑札
規則追加ノ儀相廢シ更ニ商船生絲牛馬賣買鑑札規則中左ノ通追加候
條此旨布告候事

商船 生絲 牛馬

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事

但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金二拾錢可相納事

○九年七月四日大藏省達乙第五拾九號 府 縣

商船生絲牛馬賣買鑑札改名代替轉居等ニテ鑑札書替下渡候節ハ八年十一月第一百六十六號公布ニ準據シ可取計此旨相達候事

○十年二月廿一日大藏省達乙第七號 府 縣

諸鑑札類廢業代換等ニテ營業人共ヨリ返戻ノ分共外トモ後來使用難相成分ハ爾來不及返納候條該府縣ニ於テ不取締無之様消却取計年々六月限該年分取纏メ詳細記載届書可差出此旨相達候事

○十一年二月二十一日大政官御布告第四號 二月十五日

船車賣藥牛馬賣買等税金納期左ノ通明治十一年ヨリ施行候條此旨布告候事

但從前布告達中此布告ニ矛盾スル條目ハ總テ廢止ト心得ヘシ

一般(商船解漁船等)車賣藥牛馬賣買等ノ税金前半年分ハ一月三十日限後半年分ハ七月三十日限其管轄廳へ可相納事

但船稅ノ内新規合船六月以前ニ係ル者ハ一年分七月以後ハ半年分解船破船六月以前ニ係ル者ハ半年分七月以後ハ一年分納稅ス

ヘキ事

○十一年二月二十八日大藏省達乙第十號 府 縣

船車賣藥牛馬賣買等税金納期ノ儀今般第四號以テ公布相成候ニ付本半年分收入方ハ左ノ通可相心得此旨相達候事

商 法
一牛馬稅船稅

右ハ本半年分ハ従前ノ日限通り收入不苦事

一車税賣廻税

右ハ本半年分ハ六月迄適宜月割ヲ以テ毎月收入取計不苦事

一船税

右ハ本年一月ヨリ六月迄ノ分ハ會計年度十年分へ編入致シ右以後
共年七月ヨリ翌年六月迄ノ分ヲ其年分へ編入可致事

但商船鑑札再渡書換手数料仕譯書ハ船税帳へ編入致シ本年一月
ヨリ六月迄ノ分別帳ニ製シ七月三十一日限該廳差立右以後ハ共
年七月ヨリ翌年六月迄一ケ年分七月三十一日限差立租税局へ可
差立事

〔第五十二〕疫牛處分假條例

○九年二月廿九日內務省達乙第二十號

傳染牛疫豫防ノ儀去明治四辛未年六月七日太政官公布ノ趣モ有之候
處近年内地ニ流行シ既ニ明治六年ヨリ七年ニ至ル迄牛疫ニ罹リ斃ル
、モノ全國四萬二千餘頭ニ及ヒ農業ヲ妨碍シ牧畜ノ進路ヲ遮斷スル
等五害枚擧スルニ暇アラス元來右傳染牛疫ノ儀ハ歐洲諸邦ニ於テ屢
々流行シ慘毒無量結局難治ノ症ニシテ甚シキハ殆ト一國ノ健牛ヲ蕩
盡スルニ立至リ候儀モ往々有之候處未タ彼ノ地ニ於テモ治療ノ方法
不相立到底之レヲ左右スルモ徒費徒勞ニ屬シ還テ人手ヨリ他ニ傳フ
ルノ實害アルニ付速カニ患牛ヲ撲殺シ傳染ノ原根ヲ斷テ健牛ヲ豫防
スルヲ以テ古今良醫ノ定論トスル處ニ付右牛疫ノ徵候有之節ハ斷然
牛主共ニ於テ撲殺スルハ當然ノ事ニ候得共一時姑息ノ情ヨリシテ因

疫牛處分假條例

商 法

循時機ヲ失ヒ終ニ疫毒蔓延候テハ不容易備ニ付特別ノ詮議ヲ以テ賠償撲殺法取設候條別紙疫牛處分假條例ニ照準以來各府縣ニ於テ精密共徴候ヲ探偵シ牛疫ノ疑アラハ牛價ヲ其主ヘ償與シ速ニ之レヲ撲殺シ疫毒ノ源根ヲ滅却候様取計可申允照會ノ爲メ牛病新書并疫牛容体書下ケ渡候條篤ト照準夫々處分方厚注意尙管内人民ヘモ告諭可致此旨相達候事

第一條 人民創立ノ牛疾病アルキハ其牛主ニ於テハ兼テ管轄廳ヨリ告示スル所ノ醫ニ請フテ診察セシメ若シ牛疫ノ徴候アラハ直ニ之ヲ區戸長ニ届出區戸長ヨリハ速ニ共旨管轄廳ヘ届出ヘシ但醫員懸隔ノ地等ニ於テ之ヲ迎フルノ際既ニ牛疫ノ徴候アルキハ直ニ區戸長ニ届出ツヘシ

第二條 管轄廳ニ於テハ區戸長ヨリノ具狀ニヨリ速ニ官員ヲ派出セ

シメ検査ノ上疑アルモノハ病ノ輕重ヲ不問直ニ之ヲ撲殺シ其他ハ專ラ豫防法ヲ行フヘシ

第三條 牛疫感染ノ牛ヲ撲殺スルキハ相當ノ代價ヲ其主ニ下渡スヘシ故ニ所有主ニ於テ之ヲ拒ムヘカラス

但牛價ハ其品位ニ依リ相當支給スヘシト雖必ス一頭ニ付金三拾圓ヲ超ユヘカラス

第四條 牛疫發見セハ直ニ管内ニ布達シ及勸業寮并接近ノ地方廳ヘモ之ヲ通知スヘシ

第五條 牛疫發見シタルキハ其場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ限リ直ニ道筋ニ標札ヲ建テ病牛ハ勿論健牛ト雖右限外ニ出ルヲ禁シ又他ヨリ限内ニ入ルヲ禁スヘシ假令病根全ク滅却ノ後タリトモ尙三ヶ月ヲ經サレハ其出入ヲ許スヘカラス尤四方十里以内畜牛無之

場へ往復或ハ移轉スルハ此ノ限ニ非ス〔九年五月十五日内務省達シ第六十號ヲ以テ尤以下二十八字ヲ增加ス〕

但標札文面及寸方等ハ其地方ノ適宜ニ任スヘシ尤モ右費用ハ府縣稅ノ内ヨリ支出スヘシ〔但書九年五月十五日内務省達シ第六十號ヲ以テ更正ノ分〕

第六條 牛疫起發ノ地ヘハ直ニ巡查ヲ派出シ該病ニ係ル諸般ノ取締ヲ爲サシムヘシ

第七條 牛病新書及疫牛容体書一府縣ニ付二十部宛下渡スヘキニ付各管内適宜ノ地ニ於テ相當ノ醫生ヲ撰ミ右書類ヲ下渡シ豫メ講習セシメ牛病ノ診斷ヲサシムヘシ且該醫ノ住所姓名ハ管内へ告示ス可シ

但醫員手當金ノ儀ハ昨八年四月太政官第四十九號公布第二條ニ準據シ其時々豫備金ヲ以テ支給致シ置三ヶ月分取廻大藏省へ請

取方申立ツヘシ〔但書九年五月十五日内務省達シ第六十號ヲ以テ追加ノ分〕

第八條 牛主へ償付スル金額ハ伺ニ不及豫備金ノ内ヲ以速ニ施行シ醫員ノ診斷書及牛主姓名頭數〔年齡〕〔十一年二月四日内務省達〕金額等詳細取調書相添其時々當省へ届出ヘシ

但金員受取方ノ儀ハ三ヶ月分取束子大藏省へ申立ヘシ

第九條 疫病ニ斃レ或ハ撲殺シタル牛ノ遺體ハ辛未年ノ公布ニ照準シ燒棄スルハ勿論ナリト雖其地方ノ便適ニヨリ一丈二尺ノ地下ニ埋没スルモ効ナシトス

但撲殺〔九年八月十七日内務省達シ第九十號ヲ以テ撲殺ノ二字ヲ增加ス〕燒棄埋没等ノ費用ハ所有主ノ自費タルヘシ〔但書九年五月十五日内務省達シ第六十號ヲ以テ追加ノ分〕

第十條 第五條中健牛ノ他ヨリ限内ニ入ルヲ禁スルト雖各開港場等外國人在留ノ地ニ於テ目下食料ニ欠乏スルカ如キハ嚴重檢査ノ上

法 商

屠牛ニ限リ此例ニ非ラス以下二條九年五月十五日內務省達し第六十號ヲ以テ追加ノ分

第十一條 鄰府縣接比ノ村落ヨリ牛疫發起スルキハ該廳ト協議シ管轄ノ内外ニ關セス限内ヲ定ムヘシ

茲ニ紀元千八百六十五年英國ニ於テ牛疫流行ノ際同國家畜醫ノ中最モ卓越ナル博士シモンツ氏ヲシテ書セシムル所ノ左ノ説ヲ以テ議員之ヲ公論トセシナリ

牛大ニ沈鬱シテ活潑ナラス食ヲ反芻スルヲ止メ頻リニ戰慄シ行步蹣跚タリ寒甚シ呼吸促迫シテ頭ヲ低レ眼球紅色ヲ潮シテ分泌ヲ流セリ鼻孔ヨリ粘液ヲ生シ内脣及上顎ニ於テ生色ナルモノヲ碁布シテ且ツ下痢アリ

ポーランド國ノ學士セーマン氏ノ説左ノ如シ

牛ノ食物缺乏反芻ヲ止メ鬱悶シテ口中並ニ小牙ヨリ粘液ヲ生シ

且小瘡ヲ發シ臭氣ヲ放チテ爾餘眼鼻ヨリ粘液ヲ泄シ次テ臭氣アル下痢ヲ下シ咳嗽シ漸次衰瘦シテ偶麟斷シ頭ヲ一方ニ屈メテ斃死ス

博士レーヤド氏カ疫病傳染ノ性ニツイテ著ハス所ノ書中ニ述ヘタル左ノ説ハ千七百五十七年ニ公告セリ

此傳染疫ノ初徴ハ食欲減少シ頭ヲ伸シ嚙下スルニ困難耳ニ痒ヲ覺ユル如ク搖シテ又垂レリ眼暗濁ナリ怠慢ニシテ運動ヲ好マズ爾後全シ食欲ヲ絶ス眼鼻ヨリ膿様ノ液ヲ泄シ常ニ下痢シ上顎及口瘡ニ於テ結膿シ多ク夕時ニ在テ呻吟シテ横臥セリ

因テ今茲ニ當牧羊場第一區ノ兩國沖ニ於テ斃牛ノ徵候如何アリシヲ陳ス可シ

牛ノ食欲缺乏シ反芻ヲ止メ頭及ヒ耳ヲ垂レ間歇厥冷戰慄シ下痢

法商

ヲ生シ咳嗽シ呼吸促迫ス眼鼻ヨリ粘液ヲ泄シ初メ眼ヨリ出タル液ハ全ク稀薄ナレト病長スルニ及テ次第ニ稠厚トナリ遂ニ膿狀ニ變セリ

眼球赤色ヲ潮シ鼻孔ヨリ粘液ヲ生シ臭氣ヲ放チ苦臭アル大便ヲ下ス頻リニ齟齬シ病長スルニ及テ呼吸益窘迫セリ病牛ノ内前ニ記載スル學士レーヤド氏カ述ル説ノ如ク頭ヲ仰セシ徵候アルヲ注目セリ而シテ專ラ博士シモンゾ氏カ説ノ如ク行步踉蹌タリ亦咳嗽齟齬スルヲポーランド國ノ學士カ説ト同一タリ如斯全ク病期ヲ終テ熱ノ下級ニ在ルヲ徵ス

〔第五十三〕傳染牛疫豫防法並斃死後處置

○九年三月七日內務省達乙第二十四號

今般傳染牛疫處分條例相違候處尙別紙ノ通豫防法並斃死後處置相違候條篤ト管内人民へ諭達可致此旨相違候事

別紙

- 一 若シ一戸ニ傳染牛疫ノ徵候發顯スルキハ疫牛處分假條例ヲ遵奉シ之ヲ撲殺シテ其死体ハ速ニ壹丈貳尺ノ地下ニ埋没スルカ或ハ燒棄スルハ勿論傳染病ニ紛ハシキモノト雖直様共由ヲ近隣ニ知ラセ健牛ヲ所持スルモノト互ニ往來出入ス可カラス
- 一 一戸數頭ノ牛ヲ畜養スルモノハ若シ壹頭ノ牛々疫病ノ徵候アルトハ直ニ健牛ヲ他ノ牛類無之地へ引移スヘシ尤疫牛處分假條例ノ通共場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ限リトス

法商

- 一 一地方ニ傳染病發起ノ聞ヘアレハ一層注意廐舎ヲ清淨ニシ糞糞ナト度々取替濕氣ヲ乾カシ空氣ノ流通ヲ能クスルヲ怠ルヘカラス

傳染牛疫豫防法並斃死後處置

且左ノ藥劑ヲ時々廐内ニ散布スヘシ

- 一石炭酸水
- 又ハ
- 一鹽酸カルキ水

石炭酸二タ位
水壹升五合位
鹽酸カルキ壹合位
水壹升五合位

右ノ藥品ニ乏シキ地ニテハ生石炭ヲ散布スヘシ

一飼料ハ和カニシテ消化シ易キ物ヲ與フヘシ

但燕麥粉ノ得易キ地ニテハ常食ニ與フルヲ最良トス

一干草ハ鹽水ヲ振り掛ケ潤シ與フヘシ

但多分ノ青草ヲ與フルハ下痢ヲ醸ス恐アレハ加減スヘシ

斃死後處置

一傳染病ト覺敷キ症ニテ斃ル、モノアラハ廐舎ノ内外ヲ能ク洗ヒ硫

黃一斤ヲ薰シ石炭酸水ヲ散布シテ臭氣ヲ去ラシムヘシ尤モ病牛ノ

糞尿共外治療ニ用ヒタル一切ノ物品ハ深ク土中へ埋ムルカ又ハ硫

黃ヲ散布シテ燒キ捨ツヘシ

一病牛ヲ取扱ヒタル人ハ衣服ヲ取換ヘ身体ヲ清淨ニシ一周間ヲ經サ

レハ健牛ニ近ツクヘカラス

一總テ斃牛ヲ取扱ヒタル場所ヘハ石炭酸水ヲ散布スヘシ

一傳染病牛斃死ノ廐舎ヘハ六ヶ月ヲ經サレハ健牛ヲ繋クヘカラス



〔第五十四〕各地物產取調規則

圖十年八月十一日內務省達乙第七十二號 府 縣

當省七年甲第十八號達シニヨリ取調來候物產表ノ儀ハ品類繁雜ニ涉

リ地方ノ勞費ヲ増シ候ニ付今般更ニ改正先ツ一般生産緊要ナル農產

物ヲ撰ヒ種類節減表式例言別紙ノ通相定候條精々注意毎年翌三月限

取調可差出此旨相達候事

各地物產取調規則

法 商

但昨九年分ハ此表式ニ拘ハラズ數量通價ノミ取調不苦候條本年十一月限可差出事

農産表編成例言

第一

此農産表ハ全國必要ナル農業上ノ産出物ニ就テ其播種地産額通價ノ増減ヲ徴センカ爲ニ編成スル所ナリ

第二

物産ノ種類ヲ大別シテ二種トナス第一普通物産第二特有物産是ナリ

第三

普通物産トハ各地一般ニ耕種スル所ノ日用食料ノ要品ヲ謂フ此類ヲ定メテ十四種トス

第四

特有物産トハ地質氣候等ノ異同ニヨリテ産出ノ地方限リアルモノヲ謂フ此種類ヲ假定シテ二十八種トナス其目左ノ如シ

實綿	麻繭類	藍葉	製茶	甘蔗	楮皮	雁皮三極ノ類之ニ準ス
生蠟	漆汁	紙類	葉烟草	茶種	紅花	蜂蜜
食鹽	人參	蠶繭	椎茸	糖	鱒	
乾鮑	乾蝦	乾魚	鰾	石花菜	干鰾	
海參	輕節	石花菜	干鰾			

第五

蔬菜菓實ノ類其生質腐敗シ易クシテ久藏遠輸ニ堪ヘサルモノハ姑ク之ヲ除クヘシ但シ貯藏法ヲ得遠ク地方ニ輸送スル著名ノ物産ハ此限

商法

リニアラス(例へハ紀州ノ蜜柑甲州ノ葡萄美濃ノ柿ノ類ノ如シ)

第六

凡ソ物産ハ一郡毎ニ之ヲ調査ス若シ一郡ニシテ他管ニ分渉スルモノハ宜シク其本管ニ係ルモノ、ミヲ擧クヘシ

第七

數量ハ穀鹽類ニハ石ヲ用ヒ其他ハ都テ斤(百六十匁)ヲ用フヘシ

第八

耕地ハ現ニ植物ヲ栽培スル所ノ段別ヲ謂フ

第九

通價ハ一郡中ノ平均ヲ取リ一石一斤ノ價額ヲ擧クヘシ

第十

凡ソ産額ノ増減平年ニ比較シテ大ニ差異アルモノハ必ス其原因ヲ究

認セサルヘカラス例へハ風雨寒暑水旱霜蟲ノ災或ハ開墾培養種子器具方法ノ改良進歩或ハ貿易會社ノ影響等ニヨリテ其産出ヲ増減伸縮スルノ類宜ク共事由ヲ審カニシテ之ヲ每郡ノ表尾ニ附記スヘシ

第十一

凡ソ物産ノ調査ハ一時ニ各種ノ全備ヲ求メテ反テ其實ヲ得サランヨリモ寧ロ下手ノ緩急難易ヲ酌量シテ特ニ全力ヲ有用必益ノ物ニ注キ以テ其詳細確實ヲ要スルニ若カストス故ニ或ハ地方ノ情況ニヨリ産額耕地通價ノ三目中ニ於テ一時其實數ヲ得難キモノハ姑ラク其本目ヲ闕略シテ漸次ニ之ヲ補填スヘシ倘シ各目均シク詳カナラサルモノハ亦敢テ臆算セス須ラシ他日ヲ待テ之ヲ調査スヘシ



此特有物産書式ノ品目ハ試ニ其一班ヲ示スノミ餘ハ參酌シテ適宜ニ記入スヘシ

製 茶、	生 繭、	繭	麻	實 綿 斤	明治何年何國何郡特有物産表		何々拾		府 縣 名
					産 額	前 年 比 較	増 減	一 斤 ノ 通 價	

馬 鈴 薯、	甘 藷、	玉 蜀 黍 斤	蜀 黍、

蕎 麥、	大 豆、	稗	藜	粟	裸 麥、	小 麥、	大 麥、	糯 米、	米 石	明治何年何國何郡普通物産表		何々拾		府 縣 名
										播種地段別	前年比較	増減	産額	

〔第五十五〕紅茶傳習規則

○十一年一月十七日內務省達甲第壹號

紅茶製方傳習規則別冊之通施行候條此旨布達候事

要旨

製茶ハ本邦ノ一大産物ニシテ其利甚タ大ナリ然ルニ其製法未タ全ク海外ノ嗜好ニ適セス一度支那人ノ再製ヲ經サレハ彼ノ需用ニ供セス而シテ其需用僅ニ米國ニ止リ歐州ニ適セス是ヲ以テ近年産出大ニ増スト雖ヒ却テ其價格ヲ低下シ殆ント勞費ヲ償ニ足ラス是ニ於テ新ニ紅茶製方ヲ開ソカ爲メ茲ニ委員ヲ印度支那ニ派遣シ其製法ヲ研究セシメシニ印度ノ製最モ精良ニシテ其聲價諸州ニ冠タリ本年高知縣下ニ就テ其製法ニ倣ヒ試製シ且其販價ヲ實驗セシメシニ果シテ其嗜好ニ適スルヲ確認ス然レモ今其製出ノ始ニ當リ若シ

二二六

粗惡ノ製品ヲ輸サハ必スヤ外人ノ信用ヲ失ヒ之カ爲メ全國紅茶ノ聲價ニ影響シ其損害亦タ測カル可ラス是レ此ノ規則ヲ設ケ廣ク製方ヲ教示スル所以ナリ傳習人等能ク此旨ヲ體認遵守スヘシ

勸農局

紅茶製法傳習規則

第一條 一印度風紅茶製法ノ傳習ヲ望ムモノハ一府縣下五人ヲ限リ年齡十七八歳ヨリ三十歳以內茶事篤志ノ者ニ限リ勸農局製茶所ニテ傳習スヘシ

但長野宮城福島山形岩手秋田青森等格別茶産無之縣々ハ當分除之

附法

第二條 一傳習志願人ハ左ノ書式ノ如ク願書ニ通テ認メ戶長與印ノ上毎年一月三十日限リ管轄廳へ差出スヘシ

紅茶傳習規則

五百七十七

紅茶製法傳習願書式

料紙美濃紙二ツ折

私儀兼テ製茶執心ニ付今般勸農局紅茶製法自費ヲ以テ傳習相
受度御規則ノ儀ハ堅ク遵奉可仕候間共筋へ御申立被下度此段
奉願候也

何府縣華士族平民

何大區何小區何(町村)何番地(某長次男或ハ兄弟
厄介又寄留同居等ノ如キハ區町名番地誰方
ト記スヘシ)

年 月 日

姓 名 印

明治何年何月何年何月

同

同

右身元引受人

姓 名 印

何府縣長官宛

前書之通相違無之候間與印ノ上差出候也

戸 長 姓 名 印

第三條 一傳習志願人ヨリ差出シタル願書ハ府縣廳ニテ各壹通ヲ

取纏メ二月十五日ヲ限リ勸農局へ送付スベシ

但志願人無之モ亦本文期迄ニ其旨同局へ申報スベシ

第四條 一勸農局ハ製茶季節ヲ量リ製茶場并該場開鎖ノ月日ヲ豫

定シ各管轄廳ヲ經テ本人へ達スヘシ

第五條 一傳習人往復旅費ハ勿論茶場從事中共賃錢ヲ給セス尤格

別勉勵現業練達ナル者ハ製中至當ノ賃錢ヲ與ルコアルベシ

第六條 一傳習人茶場使役中總テ勸農局吏員ノ命ニ違背スベカラサルヘシ

但品行不正且成業ノ見留無之モノハ勸農局吏員ヨリ傳習差留メ直チニ退場ヲ命ズベシ

第七條 一傳習人茶業熟成スルモノハ將來左雛形ノ如キ卒業免狀ヲ勸農局ヨリ付與スベシ

免狀雛形

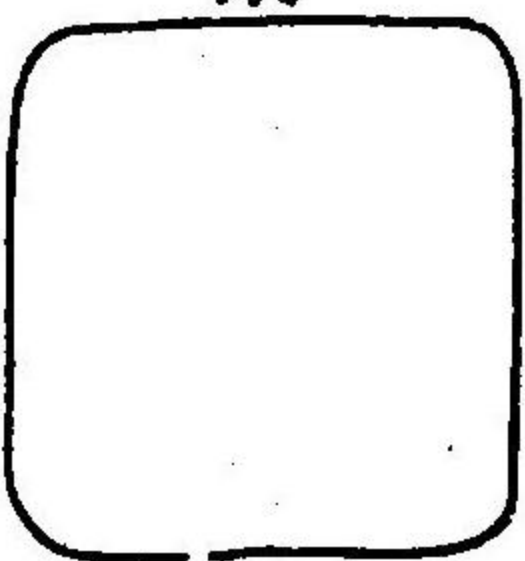
第	何府族籍	姓	名
何號			

印度風紅茶製造傳習卒業候事

年 月 日

勸 農 局

局



第八條 一卒業免許狀ヲ受ケタル者ハ勸農局ノ都合ニ由リ使用シ

製法教授ノタメ各地派遣ヲ命スルコアルヘシ

但本文使用スル時ハ相當ノ給料ヲ與フベシ

第九條 一卒業免許狀ヲ受ケタルモノ何レノ地方ヲ問ハス之レヲ

他人ニ傳ヘ又ハ備ハレテ茶製スル勝手タルベシ

但シ本文ノ如キ時ハ其所轄廳へ届出該廳ニ於テハ事由ヲ詳記

シ勸農局へ通知スベシ

第十條 一傳習人ハ勸農局ノ卒業免狀ヲ待タスシテ擅ニ他人ニ傳

ヘ或ハ備レ紅茶製造ス可カラズ

商 法